



山形市少年自然の家

利用の手引き 自然と友と

[令和5年度版]



所 章（昭和57年3月13日制定）

作者：川口祐美子

[構図のねらい]

- ・地色モスグリーン…豊かな自然の深緑
- ・上部山形構図…白鷹丘陵の山々と最高峰白鷹山
- ・下部人像構図…自然に親しむ少年像

目 次

第1章 山形市少年自然の家とは

1. 山形市少年自然の家について 3
2. 山形市少年自然の家の運営方針 3
3. 施設案内 8
4. 交通案内 9
5. 利用できる人 9
6. 利用できない日 9

第2章 利用の手続き

1. 利用手続き順序と会計 10
2. バス等借り上げ代金の助成 11

第3章 利用に必要な経費

1. 自然の家の使用料金 12
2. 食 事 代 12
3. シーツ洗濯代 12
4. 研修材料費 12
5. 野外活動センター諸経費 13

第4章 食事について

1. 食物アレルギー対応について 14
2. 食材や食料の持ち込みについて 14
3. 「本館 食堂」メニュー表 15
4. 「炊飯」メニュー表 18
5. 「その他の炊飯」メニュー表 20

第5章 研修プログラムの作成

1. プログラム作成の手順 21
2. プログラムを作成する上で大切にしたいこと 21
3. 発達段階に応じて大切にしたいこと 22
4. 特色ある研修活動 23
5. 冬期間のプログラム 23
6. 研修プログラムの記入例 24

第6章 自然の家の活動

1. 野外研修活動 及び 屋内研修活動 26
※詳細については「夏期研修資料」及び「冬期研修資料」参照。
2. クラフト等活動場所一覧 26
3. 貸出用具一覧 27

第7章 利用前の準備

- 1. 事前指導28
- 2. 用意するもの28

第8章 自然の家での生活（本館利用）

- 1. 標準生活時間帯29
- 2. 入 所29
- 3. オリエンテーション30
- 4. 係 会30
- 5. 食 事30
- 6. 炊 飯31
- 7. 引率代表指導者と職員の打ち合わせ31
- 8. タベのつどい32
- 9. 入 浴32
- 10. 就寝の準備（ベッドメイキング）32
- 11. 反 省 会32
- 12. 就 寝33
- 13. 起床・洗面・清掃33
- 14. 朝のつどい33
- 15. 奉仕活動33
- 16. 退所前の準備33
- 17. 退 所34

第9章 本館以外の利用

- 1. キャンプ場の利用35
- 2. サービスセンターの利用35

第10章 健康・安全対策

- 1. 健康及び安全の確保36
- 2. 野外活動の安全対策36
- 3. 落雷対策37
- 4. 冬期間の安全対策38
- 5. 事故が起きた場合の救急体制38
- 6. 応急処置39
- 7. AED（自動体外式除細動器）の設置場所41

資 料

- （資料1） 本館案内図42
- （資料2） サービスセンター案内図42
- （資料3） 荒沼キャンプ場43
- （資料4） 板橋沼キャンプ場44
- （資料5） 各炊飯棟内（かまど・水道）の配置図45
- （資料6） 山形市少年自然の家活動広域図47

第1章 山形市少年自然の家とは

1 山形市少年自然の家について

山形市少年自然の家は、市政施行 85 周年記念事業として建設計画が決定（昭和 53 年 3 月）され、昭和 54 年 7 月 20 日から研修業務が開始されました。また、平成 8 年 4 月より野外活動センターがオープンし、一般市民も利用できる「生涯学習の場」の機能をもつ施設として整備されました。

施設環境としては「県民の森」の中に位置し、白鷹山（標高 994 ㍎）をシンボルにして大小 13 の湖沼群に囲まれており、春は新緑、夏は冷涼な高原の風情、秋は紅葉、冬は白銀の世界と四季折々の自然に恵まれています。この豊かな環境を利用して、さまざまな研修活動を展開していくことが可能です。

子どもたちは、四季の変化の美しい大自然の中で、学校や家庭では得難い「体験活動」を通し、のびのびと、しかも生き生きとした野外活動や自然散策などの活動を行うことができます。その中で、自然の雄大さや規律・協同・友愛及び奉仕の尊さを体験的に学び、豊かな感性を身につけるとともに、未来に向かう「生きる力」を伸ばすことができると信じています。

2 山形市少年自然の家の運営方針

「山形市教育大綱」及び「山形市教育振興基本計画」に基づき、豊かな自然の中での集団宿泊生活や野外活動を通し、児童生徒及び幼児の心身ともに健全で豊かな人間性の育成を目指します。また、広く市民を対象に「自然と人間の共生」をテーマとし、生涯学習の場として、市民が利用しやすい施設運営を行います。

1 山形市教育振興基本計画における施策の展開

施策の方向1		学校教育の充実
基本施策1		魅力ある学校づくり
施策1-2	価値ある豊かな体験活動の充実	
施策の方向2		生涯学習の推進
基本施策6		恵まれた自然環境での体験活動を通した、心身ともに健全で豊かな人づくり
施策6-1	市内小中学生を対象とした自然体験活動を通して生きる力を育む自主事業の実施	
施策6-2	広く市民が「自然と人間の共生」について学ぶ環境整備の推進	

2. 具体的な施策と取組・概要

施策の方向 1

学校教育の充実

基本施策 1

魅力ある学校づくり

施策 1-2

価値ある豊かな体験活動の充実

子どもの「社会を生き抜く力」として必要な基礎的な資質・能力を養うため、価値ある豊かな体験活動の充実を図る。

また、自然体験活動を通して、子どもたちが自ら学ぶ態度や社会の変化に対応できる総合的な生きる力が身につくように支援する。

■取組1 発達段階に即した体験活動 【学校教育課】

(1) 魅力ある学校づくり推進事業

- ① 学校を支援するボランティア体制の充実を図る。
- ② 地域との連携の下、各学校が主体的に実施する体験活動等の充実を図る。

■取組2 地域や関係機関と連携した体験活動 【学校教育課】

(1) 中2・はたらく体験推進事業

- ① 市立中学校2年生の職場体験学習の実施にあたって、学校と地域、企業、行政が一体となった取組になるよう支援する。
- ② マナーアップ講習会や職業人による講話などを開催し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、生徒のキャリア発達を促す。

■取組3 少年自然の家における学校教育への支援 【少年自然の家】

(1) 利用する学校の主体的活動に対する支援

少年自然の家での活動は、校内生活ではなかなか経験できない体験が実践できる機会となる。自然に親しむこと、友達と生活を共にすることなど、利用する学校の宿泊学習のねらいが達成されるように活動を支援する立場として、学校のニーズに応じた指導の工夫・改善を行う。

① 研修プログラムへの支援

自然の家周辺の自然環境や施設を生かした研修活動を提供し、子どもにとってゆとりがあり満足感・達成感を得ることができるプログラムを展開できるように支援する。

② 指導者講習会及び事前打合せ会の充実

指導者を対象とした実技研修、リスクマネジメント等の指導者講習会を行うことで、指導への不安解消、危機管理意識を高め、子どもへの指導の充実や事故の予防を徹底する。

事前打合せ会では、各学校のねらいが達成できるプログラムになっているのかを検討し、子どもが主体的・協働的に学ぶことができるゆとりある研修プログラムになるよう助言する。

また、活動場所の確認や実際に活動を行うなど、指導者がより活動の見通しをもって子どもの指導を行っていくことができるように支援し、子どもが自ら学ぶ体験活動を目指す。

③ 指導資料の活用と整備

利用する学校が活用しやすいように、活動の目的がわかりやすい指導資料を整備し、ホームページ等を利用して資料や情報の提供を行うことで、研修プログラムの作成や手続き等の更なる利便性の向上を目指す。

④ バス利用への支援

小中学生の自然体験活動を推進し充実させていくために、山形市内の小中学校の利用に対して貸し切りバス代等の助成を行う。

施策 6-1

市内小中学生を対象とした自然体験活動を通して生きる力を育む自主事業の実施

豊かな心を育み、安らぎと潤いのある市民生活を支援するため、自然の中での活動やふれあいの場を提供していく。また、環境に関する情報提供を通して、市民が環境について学ぶ場を提供するとともに、次代を担う子どもたちに対する環境学習を実施する。

■取組1 子ども自身による体験学習の場の提供 【少年自然の家】

(1) 年間を通した自然体験宿泊活動（第37期 少年団）

心身ともにたくましく、自然を愛する子どもを育成するため、「少年団」を結成し、年7回（一泊二日×7回）の継続した活動を行う。プロジェクトアドベンチャー、野外炊飯活動、白鷹山ウォークラリーなど、日常生活では経験できない自然体験活動を行い、自分で生活を創っていくために必要な基本的技能を身につけるとともに、集団生活を通してリーダーとしての資質を高めることも目的とする。

(2) 季節に応じた自然体験宿泊活動

児童生徒を対象に、夏にはテント泊、いかだアドベンチャー、また、冬には門松作り、雪上運動会など、その季節にしかできない自然宿泊体験活動を実施する。季節で変化する自然のすばらしさと厳しさにふれることにより、自然に対する畏敬の念を深めることを目指す。あわせて、初めて出会う仲間と協力することにより、人とのかかわりのよさを再認識することも目的とする。

① サマーキャンプ・ウィンターキャンプ（各1回）

市内小学4年生から中学生2年生までを対象に、季節に応じ冒険的要素を取り入れた宿泊体験活動を長期休業中に実施する。

② キッズキャンプ（夏×2回 冬×1回）

自然に対する興味関心を高めるとともに、人とのかかわりのよさを再認識することができるように、市内小学3、4年生を対象にした育成事業を年3回実施する。

■取組2 親子によるふれあいの場の提供の推進 【少年自然の家】

(1) 親子そば打ち道場

自然に親しみながら親子の絆を深めることができるように、自然の家周辺で取れた竹を使ってそば猪口や箸を作ったり、そば打ちを行ったりする。また、そば打ちの講師として地域人材を活用することにより、地域コミュニティの活性化を図る。

(2) 親子ふれあい自然体験（2回）

親子自然散策や焚火での調理などを通して、親子のコミュニケーションの活性化を図り、親子で自然の豊かさを体験する活動を行う。

親子での協働のもと子どもの自立を促すために、保護者へ「見守る姿勢」の重要性も伝えながら、活動を展開する。

■取組3 自然と共生する事業の充実 【少年自然の家】

(1) 野外活動センターにおける野草・昆虫標本・水生生物の展示や標本づくり体験

自然環境に対する認識を深め、環境保全への実践力を高めるため、野草や昆虫等の標本及び水生生物を展示する。また、年間3回にわたって、昆虫標本づくりを体験する「森の昆虫見つけ隊」を実施する。

(2) 施設一般開放

広く市民に自然の家の施設や活動内容について理解してもらい、自然に親しむきっかけとなるよう、施設を市民に開放し、野外活動・創作活動などの機会を提供する。また、野外活動センターにおいての

市民の利活用が促進されるよう広報していく。

(3) プラネタリウムの一般公開 (3回)

天体への興味や関心を高めるために、市民を対象にしたプラネタリウムの一般公開を行う。

あわせて、プラネタリウム後に実際の星空の観察や天体望遠鏡による観察を行い、星空への関心を更に高める。また、「小さな天文学者の会」と連携し、より専門的な知識を借りながら開催する。

(4) スキー場の一般開放

スキーやそりすべり、チューブすべりなど、積雪時の自然とのかかわりを体験し、自然環境への理解を深めるため、冬季に野外活動センター前のゲレンデを一般開放する。また、親子一緒に雪遊びを通し、親子の絆を深めるとともに保護者の方には童心に帰る楽しさを味わうことができる場の提供を目指す。

冬季の自然を楽しみ、動物の足跡や植物の冬芽などの環境を観察するため、自然の家周辺を散策するラングラウフスキーの貸出し（小中学生無料）も行う。

施策の方向 2

生涯学習の推進

基本施策 6

恵まれた自然環境での体験活動を通して、心身ともに健全で豊かな人づくり

**施策
6-2**

広く市民が「自然と人間の共生」について学ぶ環境整備の推進

安全・安心な施設の運営を図るとともに、自然環境の保全に配慮しながら施設・設備の活用を図る。

■取組1 各種利用団体への支援 【少年自然の家】

子ども会等、自然の家を利用する各種団体の目的を明確にした体験活動を通して、子どもが自ら学ぶ態度や社会の変化に対応できる総合的な力を身につけることを目指し、活動を支援する立場として研修プログラムへの支援や指導の工夫・改善を行う。

(1) 研修プログラムへの支援

自然の家周辺の自然環境や施設を活かした研修活動を提供し、子どもにとってゆとりがあり満足感・達成感を得ることができるプログラムを展開していくことができるように支援する。

(2) 指導者講習会及び事前打合せ会の充実

指導者を対象とした実技研修、リスクマネジメント等の指導者講習会を行うことで、指導への不安解消、危機管理意識を高め、子どもへの指導の充実や事故の予防を徹底する。

事前打合せ会では、各団体のねらいが達成できるプログラムになっているのかを検討し、子どもが主体的・協働的に学ぶことができるゆとりある研修プログラムになるよう助言する。

また、活動場所の確認や実際に活動を行う等、指導者がより活動の見通しをもって子どもの指導を行っていくことができるように支援し、子どもが自ら学ぶ体験活動を目指す。

(3) 指導資料の活用と整備

利用する団体が活用しやすいように、活動の目的がわかりやすい指導資料を整備し、ホームページ等を利用して資料や情報の提供を行うことで、研修プログラムの作成や手続き等の更なる利便性の向上を目指す。

■取組2 野外活動センターの事業の充実 【少年自然の家】

(1) 環境に関する情報提供

自然保護の意識を高めるために、野山に住む生き物の模型や自然の家周辺の動植物の写真などの掲示等を用いて、環境に関する情報を提供する。また、季節ごとに特徴的な動植物等の展示も行う。

(2) 野外活動の発信及び季節毎の周辺自然観察会の実施(4回)

少年自然の家の野外活動に対する興味や関心を高めるために、ホームページや所報等で情報の発信をする。また、季節に合わせて(春1回・秋1回・冬2回)市民対象の自然観察会を行い、周辺の自然の魅

力を伝えていく。

(3) 市民へのキャンプ入門の場の提供(2回)

板橋沼キャンプ場の無料提供を実施し、入門期のキャンプ場利用の提供を行う。このことによって、広く市民に自然の家の活動内容や施設の機能の理解を促す。

(4) 相談機能の充実

利用者からの自然の家周辺の自然環境に関する問い合わせや、児童生徒の課題研究への相談に対応するため、野外活動センター職員を対象とした、動植物等の自然環境に関する研修を実施する。

■取組3 社会貢献活動の推進 【少年自然の家】

(1) ボランティア・社会教育スタッフ育成事業

生涯学習や社会教育に関わる人材を育成するために、大学生(山形大学・東北文教大学・東北芸術工科大学等)を対象にしたボランティアの育成とともに、山形大学・東北芸術工科大学の社会教育実習への協力を行う。

自主事業で行う活動を実際に体験しながら、体験活動を通した子どもの資質・能力や子どもへの指導・支援のポイントについて具体的に学ぶ。

■取組4 施設環境の整備の推進 【少年自然の家】

(1) 施設・設備の改修・安全管理

施設利用者が安心・安全に活動することができるようにするために、定期的な点検を行い、施設・設備の維持・改修・安全管理に努める。

(2) 環境保全

少年自然の家の環境保全とともに、広く市民が環境保全を推進するきっかけをつくるために、コンポストによる生ごみの処理や合成洗剤等の使用制限などを行う。

(3) コロナウィルス感染症に対応した施設の環境整備と活動の提供

コロナ禍の中にあっても、感染症のリスクをできる限り抑えて活動ができるような環境整備と、リスクを低く抑えた活動を確保する。

■取組5 職員研修の充実 【少年自然の家】

(1) 研修スタッフへの計画的な研修

充実した体験学習の推進のため、研修活動を適切に指導・支援することができるよう、研修スタッフ全員を対象にした計画的な職員研修を実施する。また、各事業及び各団体への支援におけるPDCA(計画・実施・評価・改善)のサイクルを日常的に行う。

(2) 危機管理及びリスクマネジメント研修の充実

安全管理の徹底とリスクマネジメントの充実を図るために、危機管理マニュアルの見直しや避難訓練、救急蘇生講習会の継続的な実施を行う。

(3) 積極的なモニター事業の実施と次年度への反映

新たな事業の運営・実施につながるようなモニター事業を積極的に実施し、次年度以降の主催事業へとつなげていくことができるようにする。

■取組6 課題等の検討 【少年自然の家】

(1) 山形市小年自然の家の今後のあり方の検討

昭和54年の開所以来43年が経過し施設設備の老朽化が進み、大規模な改修等が見込まれることや、コロナ禍並びに少子化が相まって利用者数が長期的に減少傾向にあること、そして、近年のキャンプブーム等を受けて様々な活動ができる場のニーズが高まっていること等の状況を踏まえ、学校教育中心の利用にとどまらない広範な利用の方策や、民間活力の活用も含めた持続可能な運営・事業展開について、有識者も交えた検討会を設置しながら幅広く検討する。

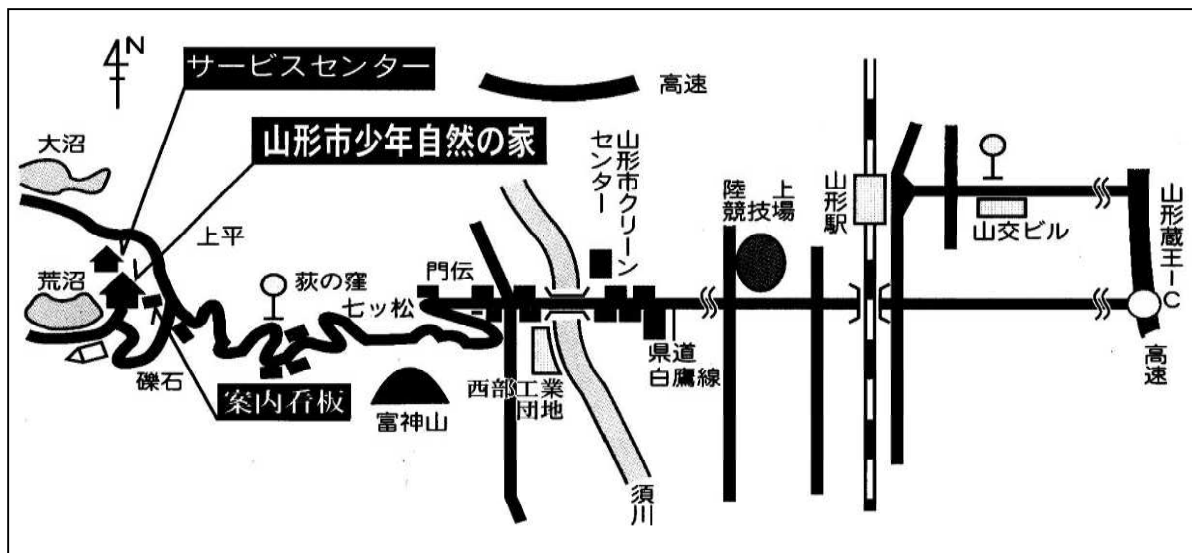
3 施設案内

山形市少年自然の家は、大きく2つの機能をもっており、小・中学校や子ども会などの団体利用と、市民の方々の個人利用に対応しています。団体利用の場合は、すべての施設を利用できますが、個人利用の場合は一部施設（本館宿泊棟施設、荒沼キャンプ場施設）の利用ができません。



4 交通案内

- 車／ 市内中心部（市役所）より約１８Km（約３５分）
■ バス／ 荻の窪行き（千歳公園 発 → 山形市役所・山形駅西口 経由）
荻の窪バス停（山形市内より約４０分）下車
→ 徒歩２．２Km（約３５分）



5 利用できる人

少年自然の家 本館	野外活動センター
・山形市内の幼稚園や保育園の園児 ・小中学校児童・生徒及びその指導者 ・山形市内の子ども会や各種少年団体など 及びその指導者・保護者 ・山形市以外の県内団体は条件付で利用可	・どなたでも ※但し、一部個人では利用いただけないものがあります。また、事前の申し込みが必要な施設があります。

6 利用できない日

■休業日

- ・月曜日（第3日曜日の翌日を除く）
- ・第3日曜日とその前日
- ・国民の祝日
- ・前日及び翌日が国民の祝日である日
- ・年末・年始（12月28日～1月3日）



■その他

- ・主催事業や施設点検のため団体利用ができない日があります。

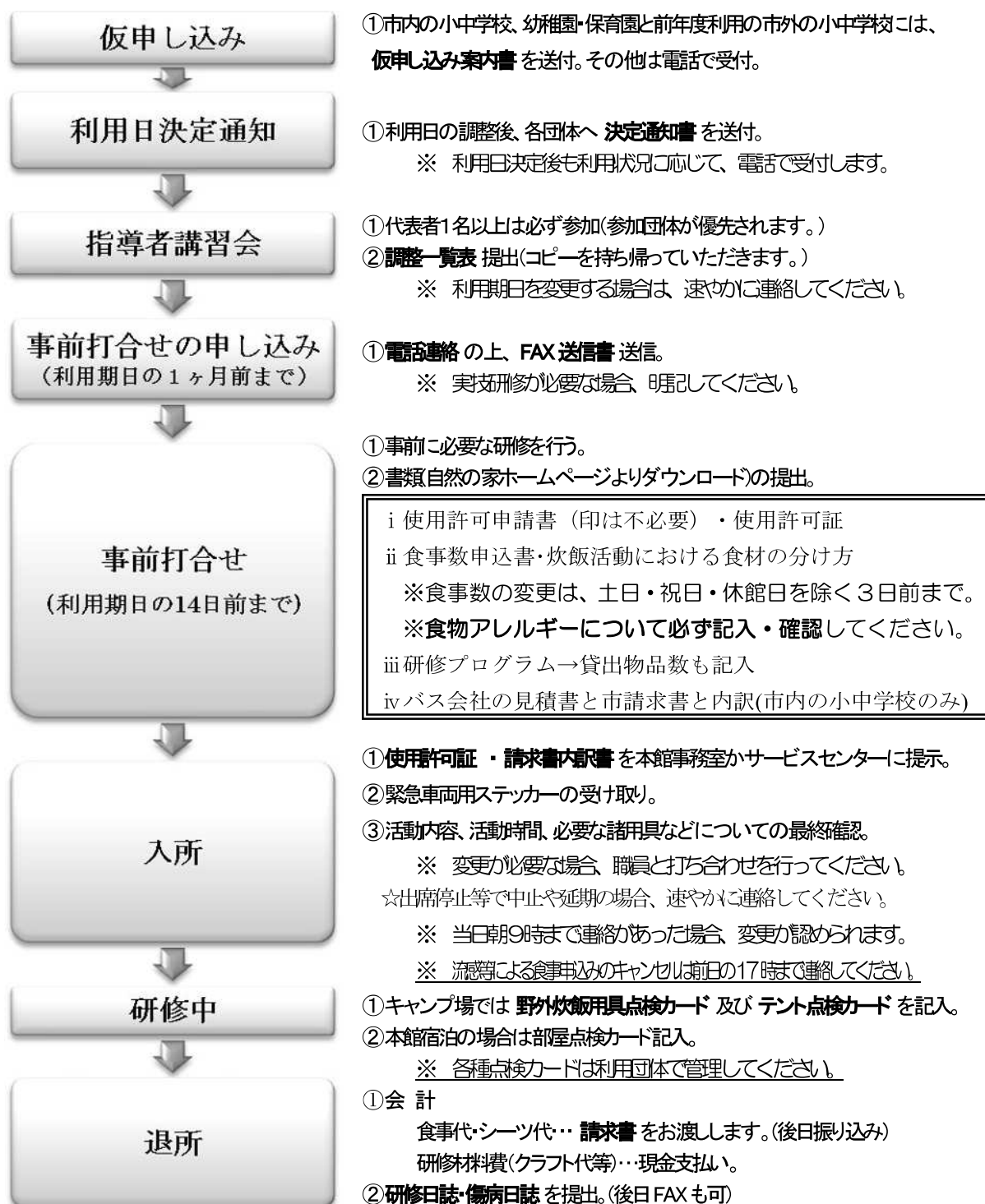
■利用時間（制限される施設とその時間）

- ・サービスセンター 午前9時～午後4時30分
- ・野外ステージ 午前9時～午後9時

第2章 利用の手続き

自然の家を団体で利用するには、次のような手続きが必要です。各団体のねらいを達成するためには、子どもの実態を把握し、どのような活動内容を展開すればよいかを考えることが大切です。そのために、指導者講習会や事前打ち合わせを有効に活用してください。

1 利用手続き順序と会計



※ 事務手続きについては、別紙 チェックシート(ホームページからダウンロード可)も参照してください。

※ プラネタリウムの鑑賞やそり・チューブすべりの活動をする場合は、電話での事前打ち合わせが可能です。

2 バス等借り上げ代金の助成（山形市内の小中学校利用のみ該当）

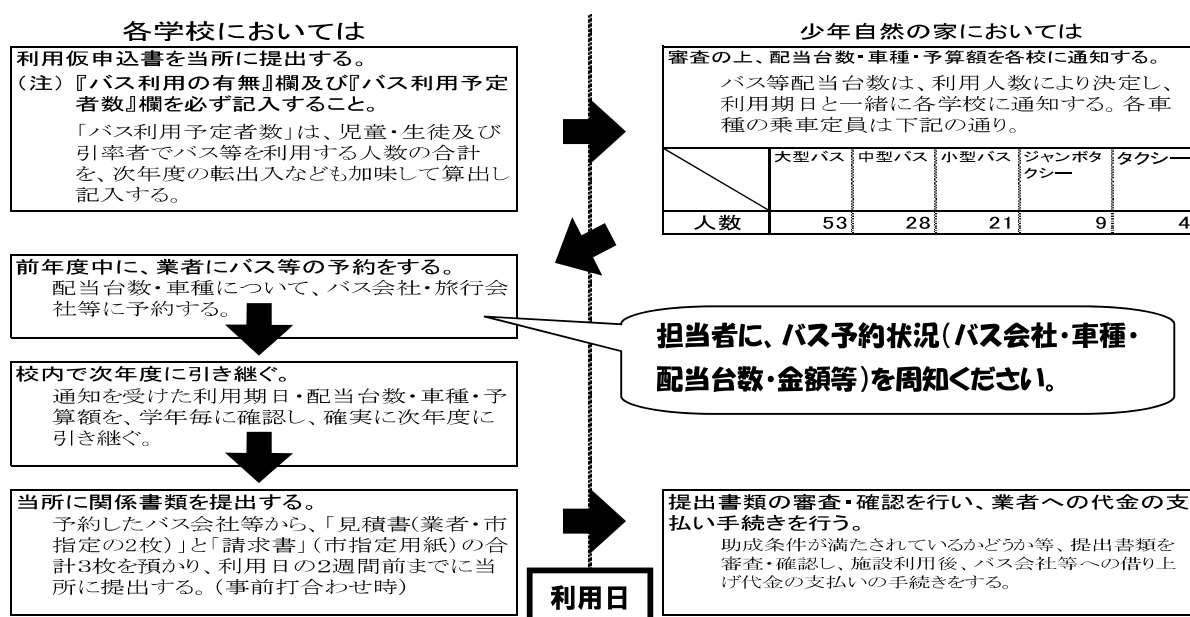
（１）バス等借り上げ代金助成の条件

- ①山形市内の小学校・中学校が各学校の教育課程内に位置づけられた学習活動で利用する場合
- ②当少年自然の家の施設を利用し、利用目的が明確な活動であると認められること
- ③次年度分の少年自然の家利用仮申込みを行っていること
- ④少年自然の家から利用学校への利用期日等決定通知を受理していること
- ⑤利用学校においてバス等の手配を行っていること
- ⑥利用学校から少年自然の家への関係書類提出が滞りなく済んでいること

＜助成できない場合＞

- 教育課程外の諸活動（部活動、PTA行事など）で利用される場合
- 当施設を利用した研修活動を行わない場合
 - ・バス等の発着場所、または、単なる集合場所としてだけ利用する場合
 - ・研修活動の場所が当施設エリア外の県民の森等である場合
 - ・施設内を通過するだけの場合
 - ・一時的な休息（待避）のために使用する場合
 - ・学校と少年自然の家間の送迎途中、別の施設等に立ち寄る場合
 - ・その他、利用目的が不明確な場合

（２）バス等借り上げ代金を助成するまでの手順



（３）備 考

次のような場合は、学校で負担いただくことになります。

- ・提出書類の審査により、助成条件が満たされていないと判断された場合の全額
- ・当所からの決定通知よりバス配当台数や車種を変更したことにより、代金がオーバーしてしまった場合の差額分

(例) 決定通知 大型バス 1 台 (69,080 円) 中型バス 1 台 (58,520 円) 総額 127,600 円

変 更 大型バス 2 台 (69,080 円×2 台=138,160 円) 総額 138,160 円

この場合、変更に伴う差額の 10,560 円は学校負担になります。

- ・バスの急なキャンセルによるキャンセル料金

第3章 利用に必要な経費

1 自然の家の使用料金

施設使用費及び貸出用具類の使用は無料です。

2 食事代 （退所時に請求書をお渡しするので、後日指定口座にお振り込みください。）

食堂の朝食…460円

食堂の昼食…500円

食堂の夕食…640円

※詳しくはP13～「第4章 食事について」をご覧ください。

3 シーツ洗濯代 （退所時に請求書をお渡しするので、後日指定口座にお振り込みください。）

本館・キャンプ場 それぞれ130円

※ 本館1泊、キャンプ場1泊の2泊3日は、260円

4 研修材料費 （退所時に、現金支払いとなります。）

品 名	単 位	価 格	備 考
キャンプ ファイヤー	1セット	大 3,000 中 2,500 小 2,000	丸太 24本と（ 灯油 2ℓ ） 丸太 20本と（ 同上 ） 丸太 16本と（ 同上 ） 薪5束（灯油 2ℓ含む）
ボンファイヤー	1セット	900	火の神・巫女の衣装 並びに、マイク・アンプを 貸し出します。 トーチ棒 10本で、灯油 1ℓが目安です。
灯 油	1 ℓ	時価 100 程度	
ローソク(大)	1 本	70	キャンドルサービスの 常火長用です。
ローソク(小)	1 本	10	手持ち用燭台の貸出し もできます。
竹 と ん ぼ	1 個	20	竹 切り出しナイフとキリ を使い、竹で作ります。
Myはし作り	1 膳	20	竹 切り出しナイフを使い、 竹で作ります。
焼 き 板	1 個	150	板・絵の具・バーナー・ひも 木の板をバーナーで焦 がして仕上げます。
ペンダント	1 個	50	ウッドチップのみの場合 20 円 ウッドチップを紙やす りで磨き、絵付けをして から紐などを付けます。
こまの絵付け	1 個	180	こま木地・紐・絵の具 絵の具かペンで絵付け します。
手回しこまの絵付け	1 個	230	こま木地・紐・絵の具 同 上
けん玉の絵付け	1 個	500	けん玉木地・絵の具 同 上
ヨーヨーの絵付け	1 個	200	ヨーヨー・絵の具 同 上
原始の火起こし	1セット	170	火きり棒・発火板 火を起こしたら、次の活 動に生かしましょう。
勾玉づくり	1セット	260	滑石・紙やすり・ 耐水ペーパー・ひも 太古の昔の人々の暮ら しに思いをはせて…
アロマ キャンドル	1 個	100	プリンカップ・芯・ろう・ アロマオイル・クレヨン 手作りで香り付きのろ うそくを作りましょう。
エコバック	1 個	300	無地バック・布スプレー・ スプレーのり 葉っぱの模様のマイバ ックを作ります。

バードコール作り	1 個	100	乾燥木・アイボルト・紙やすり・ひも	完成したら外に出て鳥たちを呼びます。
草木染め	1セット	100	布・輪ゴム・ミョウバン・割り箸	身近な草花を使って、布に染色していきます。
こけしの絵付け	1 個	250	こけしの木地・絵の具	自分なりのこけしに仕上げます。
トーチ棒作り	1 本	150	木・ウェス・はりがね	作ったものは、キャンプファイヤーに利用します。

★ 荒沼キャンプ場営火場でのキャンプファイヤーの場合、いげたの大きさは「中:2500 円」もしくは「小:2000 円」を選択してください。「大:3000 円」は火災の心配があるため、禁止にしています。

5 野外活動センター諸経費

下表の使用代金は、使用日の 10 日前までに現金でお支払いください。（小中学校・子供会等は除く）

野外活動センター 有 料 施 設 名	区 分	使 用 料	摘 要
サービスセンター ホ ー ル	入場料を 徴しない場合	3 時間までごと 1,000 円	(1) サービスセンターホール、野外ステージ及び運動広場は、専用使用の場合のみ使用料を徴収する。 (2) 音響設備、照明設備、テントとその他規則に規定する付属設備及び備品類の利用者から、1 設備及び 1 備品類につき 500 円以内で規則で定める額の使用料を徴収する。 (3) 「入場料」とは、いずれの名義であるかを問わず、入場者から徴収するその入場の対価をいう。 (4) 「1 泊」とは、午前 10 時から翌日午後 2 時までをいう。
	入場料を 徴する場合	3 時間までごと 2,000 円	
野 外 ス テ ー ジ	入場料を 徴しない場合	3 時間までごと 2,000 円	
	入場料を 徴する場合	3 時間までごと 4,000 円	
運 動 広 場	—	3 時間までごと 500 円	
板橋キャンプ場	—	一泊 300 円	

品 名	使 用 単 位	使 用 料	概 要
野 外 ス テ ー ジ 音 響 設 備	一式 1 時間までごと	100 円	「1 泊」とは、午前 10 時から翌日午後 2 時までをいう。
野 外 ス テ ー ジ 照 明 設 備	一式 1 時間までごと	500 円	
温 水 シ ャ ワ ー	一人 1 回	100 円	
机（いす 3 脚付）	一組 3 時間までごと	100 円	
ワイヤレスアンプ(マイク 2 本付)	一組 3 時間までごと	100 円	
テ ン ト	一泊	300 円	
シ ュ ラ フ	一泊（シーツ洗濯代込）	300 円	
炊 飯 用 具	一式	200 円	

下記の使用代金は、借用前にサービスセンターカウンターでお支払いください。

ラングラウフスキー板、ストック	一式 1 回	500 円	小中学生は無料。
ラングラウフスキー靴	一式 1 回	500 円	

第4章 食事について

1 食物アレルギー対応について

子どもたちの食における安全を確保するために、「特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの」（以下、「特定原材料等」と称す）をできるだけ抑えたメニューを提供することにしてあります。また、個別の「アレルギー対応食（除去食・代替食）」につきましても、事故防止を考慮し、提供しないことにしています。

★食物アレルギーをもっているお子さんがいる場合は・・・

アレルギーの程度（重度かどうか）に関わらず、メニュー表をご覧ください、各利用団体の指導者 並びに 保護者の方の責任と判断において、自然の家で提供する食事をとらせてもいいのかを決定してください。

尚、子どもの安全に関わることでありますので、保護者の方と相談する際は、実際に提供する食事のメニュー表を保護者の方に提示した上でご確認ください。メニュー表を双方向からチェックし、的確な判断をお願いします。

【個別のアレルギー対応食の提供ができない理由】

- アレルギー対応食を他の一般食と完全分離して調理できる施設・設備がないため。
- 厨房内は常に忙しく、調理できる人員数も限られるため、アレルギー対応食へのダブルチェック体制（何度も複数名でチェックする体制）を組織するのは困難であるため。

☞ 全ての子どもに食事を提供してあげたい…という思いはあるものの、アレルギー対応食が必要な子どもの安全を維持していくのは困難かつ危険である。

【具体的な対応策】

- (1) 特定原材料等の使用を抑えたメニュー及び食材提供に努めることにしています。

☞対応する特定原材料等

「そば、えび、かに、キウイフルーツ、くるみ、いくら、まつたけ、あわび、いか、落花生、カシューナッツ」

☞メニューによっては対応できない特定原材料等

「卵、乳、小麦、大豆、ごま、牛肉、豚肉、鶏肉、リンゴ、オレンジ、バナナもも、サケ、サバ、ゼラチン、ナガイモ、（サトイモ、グレープフルーツ）」

※詳しくは、次ページ以降のメニュー表をご参照ください。

※特定原材料等以外のアレルギーについては、直接お問い合わせください。

- (2) メニュー表を各団体に提示できるようにし、調理に使用される「食材」やそれに含まれる「特定原材料等」を明示しています。

☞自然の家の食事をとれない場合の対応については、職員に相談ください。

（対応例：個別にレトルト食品や弁当等を持ち込み、冷蔵庫に保管する）

2 食材や食料の持ち込みについて

団体で同じものを食べるための食材や食料の持ち込みをする場合は、食堂の利用や炊飯食材の提供は一切できません。万が一、食中毒等が発生した場合に、発生源の調査に「食堂」が含まれ、他の団体の食事提供に多大な影響を与えてしまうからです。1食分でも持ち込みをする場合は、全ての食事について持ち込んでいただくことになります。

但し、個別に持参する家庭弁当等については、その限りではありません。

問い合わせ先： エイムカイワ(株) 023-686-2222

3 「本館 食堂」メニュー表 【本館食堂 朝食メニュー】

※A, Bの選択はできません。メニューについてのお問い合わせは、食堂090-3647-1171までお願いします。

朝昼夕		メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
食堂 朝食 ABとも 460円 利用時間 7:30～ 8:30 ※ 選択は できません	食堂 朝食A	オムレツ	ミートオムレツ	卵、乳、小麦、大豆、鶏肉、豚肉
			ケチャップ	
		ウインナーソーテー	ウインナー	大豆、豚肉、牛肉
			サラダ油、塩、こしょう	大豆
		サ ラ ダ	レタス	
			キャベツ	
			ニンジン	
			ホールコーン	
			ブロッコリー	
			ごまドレッシング	卵、小麦、ゴマ、大豆、さば
		パ ン	パ ン	卵、乳、小麦
			ジャム 又は マーガリン	乳、大豆
		牛 乳	牛 乳	乳
		梅しそご飯 又は わかめご飯	精 米	
			ゆかり 又は わかめ	
	お か わ り 分	味 噌 汁	味 噌	大豆
			野菜、わかめ等	
	食堂 朝食B	ミートボール	ミートボール	乳、小麦、卵、大豆、鶏肉、豚肉、ゴマ
			甘酢あん	小麦、大豆、ゴマ
		厚焼き卵	厚焼き卵	卵、小麦、大豆、乳
		金平ごぼう	ゴボウ	
			炒りゴマ	ゴマ
			ニンジン	
			和風だし	
			酒、醤油、砂糖	小麦、大豆
			サラダ油	大豆
		野菜	レタス	
			中華ドレッシング	ごま、小麦、大豆
		ご 飯	精 米	
		味 噌 汁	味 噌	大豆
			タマネギ(ワカメ)	
			和風だし	
		ふりかけ	ふりかけ	卵、乳、小麦、ゴマ、大豆、豚肉、鶏肉、サバ
		ヤクルト	ヤクルト	乳

納品の都合で、食材が変わる場合があります。

【本館食堂 昼食メニュー】

※A～Dの選択はできません。メニューについてのお問い合わせは、食堂090-3647-1171までお願いします。

朝昼夕		メニュー		食材等		特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの	
食 堂 昼 食 A～C 全 て 500円 利用時間 12:00～ 13:00 ※ 選択は できません	食 堂 昼 食 A	カ レ ー ラ イ ス	精 米				
			豚 肉	豚肉			
			ジャガイモ				
			タマネギ				
			ニンジン				
			給食用カレー				
			カレー粉				
			ローリエ				
			ケチャップ				
			ニンニク				
			ショウガ				
			塩、こしょう、サラダ油	大豆			
			福神漬け	小麦、大豆、ゴマ			
		コ ー ン コ ロ ッ ケ	コーンコロッケ	小麦、大豆			
			サラダ油	大豆			
	中濃ソース		リンゴ				
	サ ラ ダ	キャベツ	納品の都合で、食材が変わる場合があります。				
		レタス					
		キュウリ					
		ニンジン					
		フレンチドレッシング			卵		
	デ ザ ート	ジョア	乳				
	食 堂 昼 食 B	ス パ ゲ ティ ミ ー ト ソ ー ス	スパゲティ	小麦			
			ボロニアソース(ミートソース)	牛肉、豚肉、大豆、小麦、鶏肉、ゼラチン			
			粉チーズ	乳			
		コ ー ン コ ロ ッ ケ	コーンコロッケ	乳、小麦、大豆、卵			
			サラダ油	大豆			
中濃ソース			リンゴ				
サ ラ ダ		キャベツ	納品の都合で、食材が変わる場合があります。				
		レタス					
		キュウリ					
		ニンジン					
		フレンチドレッシング			卵		
デ ザ ート		ジョア	乳				
食 堂 昼 食 C	焼 き 肉 丼	精米					
		焼き肉の具	牛肉、ごま、リンゴ、小麦、大豆				
	春 巻 き	春巻き	小麦、大豆、豚肉、鶏肉				
		サラダ油	大豆				
	サ ラ ダ	キャベツ					
		レタス					
		キュウリ					
		ニンジン					
	和風醤油胡麻ドレッシング	ごま、小麦、大豆					
デ ザ ート	ジョア	乳					

【本館食堂 夕食メニュー】

※A、Bの選択はできません。メニューについてのお問い合わせは、食堂090-3647-1171までお願いします。

朝食		メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
食堂 夕食 ABとも 640円 利用時間 17:30～ 18:30 ※ 選択は できません	食堂 夕食A	ハンバーグ	ハンバーグ デミグラスソース	卵、乳、小麦、大豆、鶏肉、牛肉、豚肉 乳、小麦、鶏肉、牛肉
		白身魚フライ	白身魚フライ	小麦、大豆
			サラダ油	大豆
			中濃ソース	リンゴ
			キャベツ	
		マカロニサラダ ポテトサラダ	マカロニサラダ・ポテトサラダ	卵、小麦、大豆、乳、リンゴ、大豆、さけ
			ミックスベジタブル	
		スー プ	キャベツ	
			タマネギ	
			コンソメ	大豆、牛肉
			和風だし	
			塩、こしょう	
		ご 飯	精 米	
		幼保小デザート	オレンジゼリー	オレンジ
		中学校デザート	ジョア	乳
	食堂 夕食B	とん かつ	豚カツ	卵、小麦、大豆、豚肉
			サラダ油	大豆
			キャベツ	
			中濃ソース	リンゴ
		ツナとごぼうの サラダ	ごぼうサラダ	卵、乳、小麦、大豆、ゴマ
			キュウリ	納品の都合で、食材が変わる場合があります。
			ニンジン	
			ホールコーン	
			ライトツナフレーク	大豆
		スー プ	わかめ	
			タマネギ	
			白ゴマ	ゴマ
			中華味	大豆、鶏肉、豚肉
			塩、酒、醤油	小麦、大豆
		ご 飯	精 米	
		中学校デザート	オレンジゼリー	オレンジ
		幼保小デザート	ジョア	乳

4 「炊飯」メニュー表

※食堂以外、箸が付きません。『My箸運動』実施中！

朝昼夕	メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
炊飯朝食 提供時刻 6:30以降 ※A～D 選択	炊朝A 430円	サンドウィッチ	食パン ロースハム2枚 マヨネーズ
		チーズ	チーズ
		牛 乳	牛 乳
	炊朝B 430円	チャーハン	冷凍チャーハン サラダ油
		牛 乳	牛 乳
		豚 肉	豚肉
	炊朝C 430円	豚 肉	豚肉
		ゴボウ	
		ダイコン	
		ニンジン	
		味 噌	大豆
		和風だし	
		ご 飯	精 米
	炊朝D 430円	ふりか け	ふりかけ
		チ ー ズ	チーズ
		魚の味付け缶 (変更あり)	仕入れ状況によるため、ご相談ください
		納 豆	納 豆 (醤油)
炊飯昼食 提供時刻 9:30以降 ※A～C 選択	炊昼A 500円	ご 飯	精 米
		豚 肉	豚肉
		ジャガイモ	
		タマネギ	
		ニンジン	
		とろけるカレー	小麦、乳、大豆、豚肉、鶏肉、しいも
		福神漬け	小麦、大豆、ゴマ
	飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
		選択: お 茶	
		選択: オレンジジュース	オレンジ
	炊昼B 500円	ゆでうどん	小麦
		豚 肉	豚肉
		タマネギ	
		ニンジン	
		とろけるカレー	小麦、乳、大豆、豚肉、鶏肉、しいも
		そばつゆ	小麦、大豆、サバ
		飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳
		選択: お 茶	
		選択: オレンジジュース	オレンジ

朝昼タ		メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
炊飯屋食 提供時刻 9:30以降 ※A～C 選択	炊飯C 500円	やきそば	やきそば	小麦、大豆
			豚 肉	豚肉
			キャベツ	
			モヤシ	
			ニンジン	
			ピーマン	
			粉末ソース、サラダ油	りんご、大豆、豚肉
		飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
			選択: お 茶	
			選択: オレンジジュース	オレンジ

※昼食メニューを朝食でも提供できますが、その場合は昼食料金になります。
 ※仕入れの都合により、食材が多少変更になることもあります。

朝昼タ		メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
炊飯夕食 提供時刻 14:40 以降 ※A～C 選択	炊飯A 640円	カレーライス	精 米	
			豚 肉	豚肉
			ジャガイモ	
			タマネギ	
			ニンジン	
			とろけるカレー	乳、小麦、大豆、ナガイモ、豚肉、鶏肉
			福神漬け	小麦、大豆、ゴマ
		ゼリー	ゼリー	オレンジ
		飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
			選択: お 茶	
			選択: オレンジジュース	オレンジ
	炊飯B 660円	牛 丼	精 米	
			牛 肉	牛肉
			糸こんにゃく	
			タマネギ	
			紅しょうが	
			和風だし	
			醤油、砂糖	小麦、大豆
		ゼリー	ゼリー	オレンジ
		飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
			選択: お 茶	
			選択: オレンジジュース	オレンジ
	炊飯C 660円	肉野菜炒め	豚 肉	豚肉
			タマネギ	
			キャベツ	
			モヤシ	
			ニンジン	
			ピーマン	
			焼肉のたれ、サラダ油	小麦、大豆、リンゴ、ゴマ
		ご 飯	精 米	
		ゼリー	ゼリー	オレンジ
		飲み物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
			選択: お 茶	
			選択: オレンジジュース	オレンジ

5 その他の炊飯メニュー

※朝昼夕いずれの時間帯においても、ご注文可能です。

献立名	メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
いも煮 セット 740円	いも煮	牛 肉	牛肉
		サトイモ	
		こんにゃく	
		ネ ギ	
		しめじ	
		醤油、砂糖	小麦、大豆
		酒	
		和風だし	
	ご 飯	精 米	
里芋の収穫 時期のみ、提 供できます。	ゼリー	ゼリー	オレンジ
	飲 み 物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
		選択: お 茶	
		選択: オレンジジュース	オレンジ
簡単炊飯 セット 630円	ご 飯	パックご飯	
	カレー	レトルトカレー	乳、小麦、大豆、牛肉、鶏肉、リンゴ、バナナ、卵、豚肉
	飲 み 物 (3つから選択)	選択: 牛 乳	乳
		選択: お 茶	
		選択: オレンジジュース	オレンジ

★携帯食(昼食弁当)としてご検討ください。提供時刻は9:00以降

	メニュー	食材等	特定原材料 及び 特定原材料に準ずるもの
おにぎり弁当(2個) 420円	鮭 おにぎり	海苔、精米、鮭	サケ
	昆布おにぎり	海苔、精米、昆布	大豆、小麦
	鶏から揚げ	鶏から揚げ	小麦、大豆、鶏肉、卵
		油	大豆
	ウインナー	ウインナー	大豆、豚肉、牛肉
	卵焼き	卵焼き	卵、大豆、小麦、乳
	漬物	たくあん漬	小麦、大豆
おにぎり 2個セット230円 3個セット345円 ※選択できません	鮭 おにぎり	海苔、精米、鮭	サケ
	昆布おにぎり	海苔、精米、昆布	大豆、小麦
	梅 おにぎり	海苔、精米、梅干し	大豆
昼食の お供に	飲 み 物 各105円	牛 乳	乳
		オレンジジュース	オレンジ
		お 茶	
	菓 子 パン 各125円	あんパン	卵、乳、小麦、大豆、ゼラチン
		クリームパン	卵、乳、小麦、大豆、ゼラチン
		ジャムパン	卵、乳、小麦、大豆、ゼラチン

第5章 研修プログラムの作成

子どもの主体的で創造的な活動にしていくためには、子どもも教師も活動に対する目的や課題意識を明確にもっていることが大切です。目の前の子どもの実態把握を的確に行い、子どもの意識、教師や保護者また社会のニーズも把握し、「どのような力をつけたいのか」を整理した上で、研修を実施するにあたって、子どもに「何をさせるか」ではなく「何のために何をするのか」といったコンセプトを明確にする必要があります。

研修プログラムの作成は、子どもに力を付けるため、あるいは、子どもの自立に向けた育ちを実現するための『活動プラン』です。教師主導の活動ではなく、子ども自身が、知・情・意を一体として、知恵を出し合い達成感を感じていくことができるようなプログラムの展開を計画していかなければなりません。そのためには、「ゆとりある活動の流れ」などが必要になります。「ゆとり」は、一つ一つの活動をつなぐ役目を果たし、各活動後に行う振り返りを「活動の具体で語り合うような質的に高いもの」にできる可能性を生み出します。

このように、活動を通して子どもを育てようとする『教師の願い』を明確にもち、『支援の方向性』を見定め、ねらいが達成できる研修プログラムをデザインしていくことが重要となります。

1 プログラム作成の手順

- (1) 活動のねらいを設定する。(子どもの実態把握→宿泊研修の教育的意義の理解)
- (2) 少年自然の家の教育的機能や活動内容を知る。
- (3) ねらい達成のための研修内容や活動の流れを検討し、他の団体との調整をする。

2 プログラムを作成する上で大切にしたいこと

- (1) 時間的・内容的にゆとりのあるプログラム
 - ・活動に余裕がないのは、事故のもと。(半日で1活動をじっくりと)
 - ・その時々の子どもの様子や状況などにより、変更できるように。
- (2) 感動体験が得られるようなプログラム
 - ・自然の雄大さ、幽玄さ、動植物の神秘。
 - ・仲間との生活から得る思い。
- (3) 冒険的要素を含むプログラム
 - ・危険も予想される活動 → 全身全力を集中する → 充実感、たくましさ。
 - ・小さなケガは、将来の大きなケガの免疫。
 - ・リスクマネジメントとクライシスマネジメントを十分に意識して安全対策を。
- (4) 選択可能なプログラム
 - ・活動内容のグループによる選択。(個人の選択)
 - ・炊飯メニューの選択(原則として食材の持ち込みは禁止。全食持込の場合は可)
- (5) 児童生徒の企画を取り入れたプログラム
 - ・子ども自身が、自分たちの生活をつくる。(下見などに子どもを参加させるのも一つの方法)
- (6) 他団体との交流を取り入れたプログラム
 - ・入退所式、朝夕のつどいなどでの交流。
 - ・食事や入浴などでの交流。
 - ・研修活動での交流。
- (7) 荒天時のプログラム
 - ・できるだけ雨天でも決行する気構えと準備を。



(8) 奉仕活動を取り入れたプログラム

- ・自然環境を守るための活動。
- ・お世話になった施設への奉仕活動。



3 発達段階に応じて大切にしたいこと

(1) 低学年

生活科で自然の家を利用する場合は、指導計画にどのように位置づけるかを吟味することが大切です。生活科は自分たちの生活圏を素材にして教材化を図り、学習していくことを基本にしています。自然の家での虫とりや木の実拾いなどの活動と自分たちの生活圏とを結ぶような手立てを明確に仕組んでおくことが大切になります。

また、自然散策を行う場合、子どもたちが五感を使って主体的に活動できるように工夫する必要があります。散策道を案内してもらうという活動よりも、遊び感覚で楽しく活動できるゲームなどを取り入れてみてはいかがでしょうか。

(2) 中学年

高学年の宿泊学習の前段階として、1泊や日帰り研修として仕組む場合が多いようです。この場合、次の学年での研修を想定して、内容を吟味する必要があります。次年度に、子どもの主体的な活動（プログラム作りも含めた）を予定している場合は、次の点を考慮してみてはどうでしょうか。

- ①自然の家のフィールドを地理的に把握できるような活動を取り入れる。
- ②「来年も自然の家に来たい」という思いを持てるような活動を取り入れる。
- ③あれもこれもと欲張らずに、余裕を持って活動できるようにする。

☆ 4年生の場合、天体学習の一環としてプラネタリウムを利用する学校が多くありますが、天体に関する興味関心を高め、学習へのきっかけづくりとして取り入れるのか、学習のまとめとして取り入れるのか等、ねらいを明確にしておくことも大切です。

(3) 高学年

宿泊学習を組む学校が多く見られますが、学校や学年としての目的を明確にしておくことが重要です。目的に合わせて、本館泊、キャンプ場泊、炊飯活動の回数、さらに、他の活動は何を選択するのかといったものが決まってくることになります。また、高学年の子どもたちが自主的に活動を展開するためには、目的だけではなく見通しをもっていることも重要です。経験や知識がないことを子どもに任せてしまってもその場を取り繕うことしかできないでしょう。子どもの実態の把握や事前学習も含めて、目的に合わせた計画が重要になります。また、子どもが考えて行動するための時間のゆとりも必要です。子ども自身が自分で判断・決定して行動していくことを支援していくことが可能な研修プログラムを作成していきましょう。

(4) 異学年

発達段階の違いを考慮し、学年毎の活動のめあてや内容について十分に吟味した上で、全校での宿泊学習を仕組んでいる学校もあります。

異学年合同の研修を行うのも、上位学年の子どもたちのリーダー性が育つなど、他との関わりが強化され、子どもたちの自立を促すことができます。高学年までの宿泊学習を系統的に仕組んでいく方法として、異学年の合同研修も考えられます。

（５）中学生

中学校は、ほとんどが１学年での利用です。多くの小学校が何度も自然の家を利用している現状を踏まえた、利用の仕方の工夫が求められます。次の点を考慮してみてはどうでしょうか。

- ① 生徒たちが、小学校時代に自然の家でどのような活動をしてきたかを把握する。そして、小学校との連携を密にして計画していく。
- ② 中学生の発達段階に合わせて、小学校ではできなかった学術的要素や冒険的要素を活動の中に取り入れていく。

目的に合わせて、生徒会や学級単位での利用なども考慮してはいかがでしょうか。

４ 特色ある研修活動

① 入所ハイク 退所ハイク	自然の家まで歩いたり、学校まで歩いて帰ったりします。途中で史跡巡りなどを取り入れることもできます。中学生に多い活動ですが、小学校でも取り入れているところがあります。
② リーダー研修	実行委員などのリーダーの事前研修です。引率者による下見の時に、子どもを参加させる団体もあります。子どもたち自身が研修を創る上で有効です。
③ 地図を活用した 研修	地図を読み取りながら、動植物の調査をしたり、目的地に向かってハイキングをしたりします。
④ 手づくりの資料を 活用した研修	手作りの資料を利用して自然散策を楽しみます。
⑤ 他校との合同研修	小規模校や他校種との交流を図りながら、一緒に研修を行います。
⑥ 異学年合同研修	上学年が先に宿泊して下学年を迎え、学んだことを伝えるといった研修スタイルをとる学校もあります。

５ 冬期間のプログラム

雪国の子どもらしく、雪まみれになって一日を過ごしてみたいはいかがでしょうか。そり、チューブすべり、ラングラウフスキーが冬の活動の代表となっていますが、そのほかの活動も是非ご検討ください。自然の家では、それぞれの団体の目的に応じてプログラム作成を支援いたします。

【こんな活動はいかがでしょうか】

- 自作そりすべり ○尻すべり ○冬の森探検（かんじきハイキング） ○雪合戦
- 冬の自然散策（冬芽の観察、生き物の冬越し、アニマルトレッキング…） ○冬山登山
- 斜面からの雪玉転がし ○雪の結晶調べ ○雪像作り・かまくら作り・イグルー作り
- ラングラウフスキーでの氷上渡りや新雪滑り ○雪上カルタ
- スノーランタン作り ○星座観察 ○ナイトハイキング

＜職員の支援＞

- ・ いかだアドベンチャー・P A（プロジェクトアドベンチャー）・アイスブレイキングは、安全指導のため、職員も一緒に支援します。
- ・ プラネタリウムについては、職員が指導します。
- ・ ラングラウフスキーや自然散策、クラフト活動などの指導希望については、事前打ち合せ時に申し出てください。

(1) 夏期の日帰り利用

(2) 夏期2泊3日の利用 (キャンプ場→本館)

- 24 -

(3) 冬期の日帰り利用

研修のねらい	① ラングラウフスキーの活動を通して、植物の様子や動物の足跡などを発見し、冬の自然の楽しさや厳しさを味わわせる。														使用部屋		
	② 自然散策や雪遊びを通して、冬の自然を楽しもうとする気持ちを高める。																
活動時刻	食堂	7:30(冬8:00)										12:00				17:30	
	その他	9:20			9:40			12:10			13:10			14:40			
第1日 2月3日	活動内容	晴		朝食会場 (提供時刻)		入所式 本館体育館 ※要指導	ラングラウフスキー ひよこコース ※要指導	昼食持参弁当	昼食場所(研修室) 提供時刻 なし		そり・チューブ滑り	退所式 S・C前 ※要指導		夕食会場 (提供時刻)			
		雨				同上	(荒天) …体育館 ・ゲーム大会等			(荒天) ・プラネタリウム ※要指導	(荒天) 体育館で退所式						
	備考	・トランシーバー2 ・そり、チューブ各60 ・旗2組															

(4) 冬期 1泊2日の利用

研修のねらい	① 冬の大自然に親しむ活動を通して、自然や郷土のよさを感じ取らせる。														使用部屋	2月10日の夜 宿泊棟2F ・201～205 ・指導員室			
	② 寝食を共にする活動を通して、仲間との絆を深め、協力することの大切さに気づかせる。																		
活動時刻	食堂	7:30(冬8:00) 12:00 17:30																	
	その他	9:45 10:00 14:00 15:00 16:30 18:30 19:40 20:30 21:30																	
第1日 2月10日	活動内容	晴		朝食場所 (提供時刻)		入所式 体育館 ※要指導		運動広場 練習会 ラングラウフスキー ◆だにぎり弁当注文	昼食場所 はんのき広場 提供時刻		オリエンテーション ※要指導	荷物整理等 ※要指導	チューブ滑り SC前	休憩 ベッドメイキング	夕食場所 食堂 (提供時刻)	プラネタリウム ※要指導	入浴	ふり返り (研修室)	就寝
		雨			同上		(荒天) …本館周辺で。 弁当は体育館で。	9:50		同上	(荒天) 体育館でゲーム。	同上			同上		同上		
	備考																		
活動時刻	食堂	7:30(冬8:00) 12:00 17:30																	
	その他	6:30 7:00 7:30	8:40 9:00 9:20	13:00 14:15															
第2日 2月11日	活動内容	晴	起床 朝の集い(体育館) 奉仕活動 ・本館周辺の雪かき	朝食場所 食堂 (提供時刻)	部屋整理・清掃	部屋点検		ラングラウフスキー (Bコース) ※要指導	昼食場所 食堂 (提供時刻)	雪遊び (SC付近)	退所式 SC前 ※挨拶位置			夕食場所 (提供時刻)					
		雨	同上	8:00	同上		(荒天) …Dコース ※要指導	12:00	(荒天) …SC 自然散策 ※要指導2名	同上									
	備考																		
活動時刻	食堂	7:30(冬8:00) 12:00 14:15 17:30																	
	その他	6:30 7:00 7:30	8:40 9:00 9:20	13:00 14:15															

第6章 自然の家の活動

1 野外研修活動 及び 屋内研修活動

詳しい内容については、別冊『夏期研修活動』もしくは『冬期研修資料』に記載してありますので、そちらをご覧ください。

以下の研修用動画のDVD貸し出しを行っております。尚、山形市内の先生方は、コミュニケーションシステムでご覧いただくことができます。

- | | |
|----------------|----------------|
| ★オリエンテーション | ★プロジェクトアドベンチャー |
| ★チューブすべり・ソリすべり | ★正しいテントの組み立て方 |
| ★正しいテントの片づけかた | ★正しいコンパスの使い方 |
| ★春の草花 | ★炊飯活動 |
| ★冬の自然観察 | ★焼き板 |
| ★原始の火起こし | |

2 クラフト等活動場所一覧

	体育館 (130人程度)	体育館 ピロティー (20人程度)	研修室 (70人程度) 視聴覚室 (110人程度) 学習室 (50人程度)	ガレージ (50人程度)	ピロティー (100人程度)	生活体験 の家 (100人程度)	サービス センター 1階 (50人程度) 2階 (120人程度)	サービス センター ピロティー (20人程度)	屋根付き 広場 (100人程度)	キャンプ場 大テント (50人程度)
原始の火起こし	○	○		○	○			○	○	○
キーホルダー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
竹トンボ・My はし作り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
焼き板		○			○			○	○	
こま・けん玉絵付け類	○					○	○			
勾玉づくり	○	○			○	○	○	○		
バードコール作り	○			○	○	○	○	○	○	○
アロマキャンドル	○	○		○	○		○	○	○	○
エコバッグ		○		○	○			○		
草木染め		○			○			○		
キャンドルサービス	○								○	○

※（ ）内の人数は、クラフト活動での最大人数の目安です。

※ その他の活動場所については、事前打合せの際にご相談ください。

3 貸出用具一覧

No.	(1)体 育 用 具	数	保 管 場 所
1	卓 球 台	1	体 育 館
2	卓 球 ラ ケ ッ ト	20	体 育 館
3	バトミントンラケット	6	体 育 館
4	長 縄	5	体 育 館
5	輪投げ（セット数）	2	体 育 館
6	リング・フラフープ	117	体 育 館
7	バレーボール	3	体 育 館
8	ラグビーボール	2	体 育 館
9	ソフトバレーボール	0	体 育 館
10	ゴ ム ボ ー ル	1	体 育 館
11	そ の 他 ボ ー ル	9	体 育 館
12	ビブス（赤・黄・緑）	各20	保 健 室 前

No.	(2)天体関係用具	数	保 管 場 所
1	6 cm 望 遠 鏡	7	学 習 室
2	星 座 早 見 表	88	プ ラ ネ 室

No.	(3)クラフト関係用具	数	保 管 場 所
1	ホ ッ ト ボ ン ド	9	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
2	は さ み	38	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
3	のこぎり（両刃）	60	工 作 室・工 作 室 2 階
4	のこぎり（片刃）	14	工 作 室
5	のこぎり（竹切り）	13	工 作 室
6	小 刀	130	工 作 室
7	小 刀（左）	19	工 作 室
8	彫 刻 刀	31	工 作 室
9	カ ッ タ ー 大	8	工 作 室
10	カ ッ タ ー 小	11	工 作 室
11	キ リ	123	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
12	金属ヤスリ（3種類あり）	82	工 作 室
13	金 づ ち	8	工 作 室
14	木 槌	5	工 作 室
15	ペ ン チ	15	工 作 室
16	ラ シ ン グ オ ー ン チ	11	工 作 室
17	ド ラ イ バ ー	28	工 作 室
18	工 作 板	214	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
19	図 画 板	139	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
20	ガ ス バ ー ナ	24	工 作 室
21	な た	16	工 作 室
22	段ボールカッター	60	工 作 室

23	ラ ン タ ン	15	工 作 室
24	原始の火起こし固定板	39	工 作 室
25	原始の火起こし（ハンドピース）	39	工 作 室

No.	(4)観察・採集用具	数	保 管 場 所
1	ル ー ペ	57	サ ー ビ ス セ ン タ ー
2	双 眼 鏡	45	学 習 室
3	聴 診 器	9	会 議 室
4	フィールドスコープ	4	学 習 室
5	移 植 ベ ー	19	サ ー ビ ス セ ン タ ー
6	剪 定 バ サ ミ	23	工 作 室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
7	の こ ぎ り	12	サ ー ビ ス セ ン タ ー
8	捕 虫 網	23	サ ー ビ ス セ ン タ ー
9	三 角 缶	28	サ ー ビ ス セ ン タ ー
10	展 翅 板	多数	サ ー ビ ス セ ン タ ー
11	ピ ン セ ッ ト	46	サ ー ビ ス セ ン タ ー
12	毒ビン（代替瓶）	29	サ ー ビ ス セ ン タ ー

No.	(5)図鑑・図書	数	保 管 場 所
1	昆 虫 図 鑑	25	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
2	グリーンアベンチャー図鑑（秋用）	37	学 習 室
3	グリーンアベンチャー図鑑（春用）	35	学 習 室
4	野草図鑑 1～8（各1）	8	学 習 室
5	昆虫図鑑 名前といわれ	9	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
6	川 と 湖 の 魚	1	学 習 室
7	山野草 ポケット図鑑	11	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
8	樹木1（野外ハンドブック6）	30	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
9	樹木2（野外ハンドブック7）	38	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
10	山 形 の キ ノ コ	7	学 習 室
11	ポケット版 雑樹 小学生の図鑑図鑑1	8	学 習 室
12	ポケット版 昆虫 小学生の図鑑図鑑2	3	学 習 室
13	バードウォッチング	6	学 習 室
14	やまがたの鳥図鑑	17	学 習 室
15	水 辺 の 鳥	32	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
16	山 野 の 鳥	19	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
17	身近な樹木 ポケット図鑑	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー
18	野の草花図鑑 1	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
19	野の草花図鑑 2	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
20	野の草花図鑑 3	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
21	野の草花図鑑 4	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー・学 習 室
22	魚 の 図 鑑 1 ・ 2	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー

23	釣 り の 魚	2	サ ー ビ ス セ ン タ ー
24	草花遊び・虫遊び	8	サ ー ビ ス セ ン タ ー
25	名前といわれ野山の鳥	10	サ ー ビ ス セ ン タ ー
26	名前といわれ水辺の鳥	6	サ ー ビ ス セ ン タ ー
27	チ ョ ウ 1 ・ 2	1	サ ー ビ ス セ ン タ ー
28	バードウォッチング	1	サ ー ビ ス セ ン タ ー
29	川 ・ 池 の 生 物	2	サ ー ビ ス セ ン タ ー

No.	(6)研修活動用具	数	保 管 場 所
1	トランシーバー	12	印刷室・サ ー ビ ス セ ン タ ー
2	携帯用トランジスタメガホン	4	各 管 理 棟
3	生活科バッグ	90	保 健 室 前
4	ワイヤレスマイク（ワイヤレスマイク1付）	4	本館印刷室・キャンプ場
5	C D プ レ ー ヤ ー	3	本館印刷室・キャンプ場
6	ド ラ ム コ ー ド	6	本館印刷室・キャンプ場
7	火の神・火の巫女衣装	4	本館印刷室・キャンプ場
8	熊 鈴	87	保 健 室 前
9	シルバコンパス	23	会 議 室
10	いかだ用拡声器	1	荒沼いかだハーバー
11	い か だ	12	荒沼いかだハーバー
12	いかだ監視用ポート	1	荒沼いかだハーバー
13	いかだ救命用浮き輪	2	荒沼いかだハーバー
14	い か だ 胴 長	4	体 育 館
15	いかだライフジャケット 小	43	体 育 館
16	いかだライフジャケット 大	90	体 育 館
17	い か だ オ ー ル	132	体育館昇降口
18	焚 き 火 台	10	工 作 室
19	ホットサンドメーカー	12	工 作 室
20	ダッチオーブン	10	工 作 室

No.	(7)そ の 他	数	保 管 場 所
1	ピアノ（移動不可）	1	研 修 室
2	ホワイトボード	2	本館・サ ー ビ ス セ ン タ ー
3	移 動 用 黒 板	1	体 育 館
4	フ リ ス ビ ー	215	工 作 室
5	レジャーかまど	6	工 作 室
6	モ ル ッ ク	6	工 作 室
7	ハンズフリー拡声器	10	印 刷 室

※上記の内訳をご覧の上、使用希望が重複する場合は各団体で使用する数および時間などを調整してください。

第7章 利用前の準備

1 事前指導

効果的な利用ができるように、次のことを話し合いましょう。

- ① 自然の家の利用についてのねらいや心構え
- ② 活動のねらい・内容・方法
- ③ 自然の家での生活の仕方
- ④ 班編成や役割分担
- ⑤ その他



2 用意するもの

(1) 個人やグループで用意するもの

《衣 服》 私服や運動着（長そで、長ズボンが原則）、帽子、ズック（内・外）、軍手、夜着、替下着（多めに）、替靴下（多めに）など
必要に応じて・・・防寒用セーター（テント泊）、ウィンドブレーカー、スキーウェア など

《携行品》 洗面用具、ちり紙、タオル、筆記用具、メモ帳など

《活動用品》 雨具、長靴

- ・登山の場合・・・・・・・・・・ナップザック など
- ・炊飯活動の場合・・・・・・・・・・箸、スプーン、皿、おわん、敷物、新聞紙、軍手、うちわ など
- ・キャンプ場利用の場合・・・・・・・・懐中電灯 など
- ・キャンプファイヤーの場合・・・・トーチ棒 など
- ・雪上活動の場合・・・・・・・・・・帽子、手袋、スパッツ、ゴーグル など

持ち物には、「学校名」と「氏名」の記名を忘れずに！

(2) 団体で用意するもの

救急用具、 懐中電灯、 事務用品、 ごみ袋、 ランタン用乾電池（単1を4個）
お茶の葉（指導者用）、 ポット、 保護者への連絡手段（SOSカード等）
ブルーシート、 部屋出入り口に表示する名簿、 急病者用毛布、 プログラム
活動に必要なカードや地図などをダウンロードして必要分を準備、利用許可証
必要経費、 虫除けや殺虫剤、 など

※ 炊飯用として・・・マッチ、指導者用の食器 など

第8章 自然の家での生活（本館利用）

1 標準生活時間帯

タイムスケジュールは、各団体の計画によって進めていただきますが、子どもの体力や他の利用団体との連携・協調等の必要性から、原則として、次のような標準生活時間帯を設定していますので、ご協力をお願いします。

6:00	7:30	8:30	12:00	13:00	17:30	18:30	21:30		
起床・洗面・清掃	朝 食	午前 の研修活動	昼 食	午後 の研修活動	(夕べの つどい)	夕 食	入 浴	夜の 研修活動	就 寝

- ① 起床と就寝…………… 起床 6:00
就寝 21:30
- ② 本館食堂での食事時間…………… 朝食 7:30～8:30
※ 12月～3月は、8:00～9:00
昼食 12:00～13:00
夕食 17:30～18:30
※ 18:15までに下膳をお願いします。
- ③ お昼の弁当類の提供…………… 9:00～
- ④ 入浴時間…………… 18:30～21:00 ※天候や団体数により変更可能。
- ⑤ 本館部屋点検…………… 8:45～
- ⑥ 入退所の時間…………… 9:00～16:00までの間
※ 12:00～13:00の間を除く。

2 入 所

- ① 入所されたら、指導者代表の方は、事務室かサービスセンターへ（キャンプ場利用の場合も代表者は本館事務室へ）使用許可証など(p9参照)を提示し、活動プログラムの確認をしてください。

※本館玄関前までのバスの進入はできません。

- ② 自家用車は、大型駐車場または荒沼駐車場へ置いてください。尚、本館正面玄関前及び宿泊棟周辺は、子どもたちの活動ですので、駐車できません。

※ 各団体につき1台に限り、自然の家ステッカーを貼った車を、緊急車として以下の場所へ駐車できます。

- ・本館……………本館前斜路 及び 冒険の森入り口
- ・キャンプ場……………管理棟前など（村長の指示に従ってください。）

- ③ 団体の特色を生かして入退所を行います。入退所式では、職員があいさつに伺います。

〔入所式の場所〕

- 本館玄関前 ○体育館 ○研修室 ○視聴覚室 ○各キャンプ場の広場
- サービスセンター前広場

〔入所式の内容例〕

- (1) はじめのことば
- (2) 旗の掲揚（校旗、団旗、子供会旗、市旗 等）
- (3) 自然への呼びかけ・歌 など

例1 おーい 虚空蔵山
○○が来たよ
自然と仲良くします！
自然を大切にします！
おーい 虚空蔵山
よろしくお願いします！

例2 おーい 青い空よ 緑の森よ
私たちは 広い野原の中で
元気に活動します！
カいっばい挑戦します！
おーい 大自然よ
よろしくお願いします！

- (4) 研修生代表のことば（決意、めあて 等）
- (5) 自然の家の職員の話
- (6) 引率者代表の話
- (7) おわりのことば

3 オリエンテーション

宿泊する団体は、オリエンテーションを行います。本館に宿泊する団体には、必要に応じて職員が行いますので、20～30分程時間を設定してください。

- ※ 事前に各団体で行うことも可能です。（DVDを貸出していますので、お問い合わせください）
- ※ 市内小中学校向けのホームページに動画をアップしています。
- ※ キャンプ場に宿泊する団体は、引率者の方から、資料をもとに行っていただきます。また、入所式の際に簡単なオリエンテーションを行います。

4 係 会

各班には班長、生活係、整備係等の係をおいてください。必要に応じて、各団体で工夫した係を準備しても結構です。

- ・班 長・・・・研修・生活活動のリーダー、5分前行動の徹底、諸連絡など。
- ・生活係・・・・シーツの受け取りと返納、ベッドメイキング、食事の世話、各部屋の整理等。
- ・整備係・・・・清掃（各部屋、廊下、階段、洗面所）、浴室の整理など。

5 食 事 ※キャンプ場利用の団体は炊飯活動が基本になります。

食事はセルフサービスで行います。カウンターにおかずが準備されますので、下記の方法で取ってください。

- (1) 手洗いは、宿泊棟の洗面所でしてください。
- (2) 食事の手順は、入り口、①で食器を、②でおかずを準備し、③でテーブルへ進みましょう。
- (3) 奥のテーブルから順に席に着くようにしましょう。
- (4) 食べ終わったら食べ残しは④、食器は⑤へ片付けてください。（係の人がまとめて運ぶ。）
- (5) 食べ終わったらテーブルと椅子を拭き、椅子をテーブルの下に寄せてください

※ 注文された弁当類、炊飯活動材料は、**食堂のテーブルでお受け取りください。**

— 線は準備
- - - 線は準備後かたづけ

厨房外出入り口

厨房

カウンター
②
流し
⑤

③

①

④

柱 柱 食器台 柱 柱

入口

廊下

出口

←宿泊棟

ロビー

- ① 炊飯材料は、本館食堂のテーブルから各々受け取ってください。
- ② コンテナ、薪、除菌スプレー（スキッシュ）を用具庫から持ってくる。
※薪について・・・原則として炊飯1回に付き1班で1束となります。
- ③ コンテナの道具、数を確認する。
 - ・道具の点検はカードで行う。（少年自然の家HPよりダウンロード）
 - ・不足などがあつたら職員へ申し出る。
- ④ 炊飯道具は除菌スプレーをする。（鍋の外側にクレンザーを塗ると片付けが楽になります。）
- ⑤ 決められたかまどで調理する。（肉は切らずに調理します。）
 - ・利用団体で計画して下さい。
- ⑥ 食事は班ごとに適当な場所で行う。その際、熱い鍋などを草の上に直接置かないこと。
（熱いものを直に置くと、土の中の生物が死んでしまいます。）
- ⑦ 道具は、自然の家で準備したクレンザーのみを使用してきれいに洗い、点検カードを確認して、水が切れるようにコンテナに逆さに入れる。 → コンテナ置き場に戻す。
- ⑧ 生ゴミ、残飯はコンポストに捨てる。ビニール、トレイ、サランラップなどのゴミは分別し、配付された袋に入れて、本館玄関わきのゴミ箱に入れる。
- ⑨ 水切り用のバケツもきれいに洗う。
- ⑩ かまどを掃除する。薪には絶対に水をかけない。燃やしきって灰になったらドラム缶に捨てる。

必要があれば、夕方5時15分までの間に、自然の家職員と夜の活動や次の日の研修内容の確認や諸準備の打ち合わせを行ってください。

8 タベのつどい

一日の反省と評価などを交えながら、これからの研修活動を盛り上げるつどいにしましょう。

また、他団体との交流も大いに深め、お互いに紹介しあったり、良いところを学びあったりしながら、親睦を深めましょう。

【タベのつどい 内容例】 特色ある構成にしましょう。

- 団体紹介 ○活動のふり返りや感想発表 ○活動におけるグループや個人の表彰
- 歌（所歌・校歌・今まで育ててきた合唱など） ○ゲームやフォークダンスなど
- 指導者の幼い頃の思い出話（民話や自然の話などもよい） ○諸連絡 など

9 入 浴

一日の緊張感が心身共にほぐれる時であり、友だちや指導者との裸のつき合いができる場です。少なくとも 15 分は入浴できるように工夫しましょう。（シャワーの数は男子浴室、女子浴室とも 10 個程度使用可。一度に 20～25 人の入浴可。）遅くとも夜 9 時までには済ませてください。

【注 意】

- 常備してある固形石鹸以外のシャンプー等は使用しないでください。（水を汚さないためです）
- 浴槽にタオルを入れないでください。
- 浴槽内にある循環孔をふさがないでください。
- シャワーは湯加減を水道の蛇口で調整してから、コックで切り替えてください。
- 最後に浴室を出る人は、必ず水道を止め、電灯、換気扇、扇風機などを消してください。
- 洗い桶、腰掛の整理も心がけてください。
- 体をしっかりとタオルで拭いてから脱衣所に入ってください。
- キャンプ場（荒沼・板橋）に一泊宿泊の場合は、原則として利用できません。どうしても入浴が必要な方がいる場合は、ご相談ください。板橋キャンプ場に入所された場合はシャワー（4 台）が使えます。（ただし、2 泊以上の時にご利用ください）

※ 指導者は必ず付き添って入浴のマナーなどについて指導してください。尚、下着や靴下等の忘れ物が目立ちますので、入浴後に必ず浴室と脱衣場の確認をお願いします。

※ 個別に入浴が必要な場合は、職員にご相談ください。

10 就寝の準備（ベッドメイキング）

「1 階衣料庫」から、1 人分につきシーツ 2 枚と枕カバー 1 枚を部屋の人数分持っていきます。

11 反 省 会（団体の裁量で）

一日の活動を振り返り、自分やグループ・全体のあり方はどうだったかについて、充分時間をとって話し合い、これからの活動や生活に生かしていくことができるようにしたいものです。

【記録の例】

- 日記形式にまとめる。
- 指導者や親への手紙文としてまとめる。
- グループや個人新聞としてまとめる。
- 事前に目標を分析し、細分化したものをチェックしながらまとめる。

12 就 寝(たっぷり睡眠をとること)

ドアの開け閉め、話し声、足音など他人の迷惑にならないよう気配りをしてください。

[注 意]

○非常灯以外の電灯は消してください。

○冬は暖房が入っていますから、室内の乾湿に気を付けてください。

※ 緊急避難の場合もありますので、指導者は必ず『部屋担当責任者』になってください。

13 起床・洗面・清掃

○ 起床後はベッドを整理し、使用済みシーツと枕カバーを「2階の衣料庫」に返してください。

※ マットレスやシーツ等、汚した場合は職員にご相談ください。

○ 清掃については、「来た時よりも美しく」という合言葉で。宿泊室の他に、廊下や玄関、階段、洗面所等も清掃してください。掃除用具は、廊下の用具室の中にあります。

○ 洗面所は、ステンレスと鏡をみがき、流し、トイレのごみも取ってください。風呂場の整理整頓にもご配慮ください。(トイレの水まき清掃はやらなくて結構です。)

○ キャンプ場では、テントの中と外のごみ拾い、トイレ、炊飯場の清掃をしてください。

○ キャンプファイヤーを実施した団体は、翌朝速やかに営火場を片付けてください。

※ 火守り役の方は、残り火がある間は、燃え尽きるまで作業をお願いします。

14 朝のつどい

一日の活動に対する意欲づけや健康観察をしてください。また、前日の反省に立って新たなめあてを掲げたり、個人やグループの活動の様子などを認めてあげたりすることも大切です。

[朝のつどい内容例]

○朝のあいさつ

○健康観察

○旗の掲揚

○朝の運動

○歌

○朝の話(指導者ばかりでなく、子どものお話なども)

○他団体との交流

○諸連絡

15 奉仕活動

子どもたちに社会や他人のために働く意義と喜びを味わわせましょう。

※ 宿泊団体は、原則として奉仕活動を取り入れることになっています。

○草とり

○荒沼のごみひろい

○石拾い

○館内清掃

○雪はき、雪踏み

○スキーの整理整頓

※ 子どもたちにさせたい奉仕活動がありましたら、それをぜひ実行してください。

※ ゴミ拾いを行ってくださる場合は、ゴミ袋を持参の上、分別をお願いします。

16 退所前の準備

退所前にしなければならないことは、次のとおりです。

①研修活動に借用した物品の返納。

②研修日誌の提出(後日、FAXまたはメール〈SHIZEN@ymgt.ed.jp〉でも可。)

※ 研修日誌はHPよりダウンロードできます。

- ③部屋の点検。整理完了したら事務室に連絡してください。その時、各部屋の荷物はすべて廊下などに出して、各班の代表の子どもを点検に立ち合わせてください。
- ④引率者は事務室で食事代やシーツ代の請求書を受け取ったり、クラフト代などの実費の支払いをしたりしてください。

17 退 所

団体の特色を生かして退所式を行います。

めあてにどれだけ近づいたか、この活動で学んだこと、感じたことなどを表現してください。

[退所式の内容例]

- (1) はじめのことば
- (2) 感想発表
- (3) 白鷹宣言（退所前に話し合ったことをまとめて宣言）
- (4) 合唱など
- (5) 自然の家の職員の話
- (6) 指導者の話
- (7) 旗の降納
- (8) おわりのことば

ひとことメモ

「ふり返り」は 子どもの育ちを実現するための貴重な活動！

子どもが本気になって「価値ある活動」を体験しても、自分の変容への気付きが掘り起こされなければ、活動した意味も子どもの育ちも半減してしまいます。子どもが、自らの高まりやこれから頑張りたい課題を意識してこそ、次の活動や今後のくらしに活かされるからです。無自覚のままに過ぎ去ってしまうのは、とてももったいないことです。

そこで、「ふり返り」のポイントを紹介させていただきます。

- ① 子どもが忘れてしまわないうちに、時期を空けずに「ふり返り」の活動を設定する。
- ② 学年・学級で掲げた活動のねらいについてのふり返りを個別に書く。
- ③ 全員がふり返りを書き終わったら、全体交流により共有を図る。「高まったこと」と「もうひと息のところ」を区別して板書する。
- ④ 子どもの発表が「～できてよかった」「～したのが楽しかった」という結果一辺倒のものばかりの場合は、「どうしてできた（楽しめた）のか。自分は、どんなことを頑張ったのか」を考えるポイントとして提示し、再考させた後に、再び全体交流を設定する。
- ⑤ 全体交流の場に出された今回の高まりを、どんな活動に活かしていくのかを決める。また、もうひと息のところをどんな活動で高めていくのかも決める。
- ⑥ 決めたことが達成できた時の素晴らしさをイメージさせ、子どもたち全員の今後の目標にできるように意識付けをする。励ます。→ 日常的に評価する。

第9章 本館以外の利用

1 キャンプ場の利用

(1) 入所について

- ① 入所式の方法は本館での方法に準じます。本館から移動してきた場合は、職員によるオリエンテーションを行ってください。
- ② オリエンテーションの後、テントに入り荷物を整理します。(板橋沼キャンプ場は、各班でテント設営・撤収を行います)
- ③ 銀マット・シュラフ・インナーシーツを配付します。村長(管理人)もお世話しませんが、子どもには利用団体の指導者が配付してください。コンテナは炊飯活動の直前に配付します。

(2) 生活と研修活動について

- ① 本館の施設、設備を使って活動する場合(プラネタリウム、体育館など)は、本館利用団体が優先となります。本館利用団体が使用しない時間帯にのみ利用可能です。
- ② 落雷や暴風雨などの非常時には、本館へ避難する場合があります。その場合は、本所の職員ならびに管理人の指示に従ってください。

(3) 安全確保と諸注意

- ① 火を使う場合が多いので、やけどなどに注意してください。(軍手使用など)
- ② 夜間の活動では、指導者は十分な監視体制を取ってください。
- ③ キャンプファイヤーの残り火がある間は、1名以上の引率者が残って、完全に火が消えるまで離れないようにしてください。尚、熱くなっている火床に水をかけないようにしてください。



④ 禁止事項

- | | |
|-------------|-------------|
| ×テント内での火気使用 | ×炊飯場以外での煮炊き |
| ×飲 酒 | ×花 火 |
| | ×煙草等の投げ捨て |

(4) 退所にあたって

- ① 退所の前にはテント内外の清掃をしてください。
※板橋沼キャンプ場はテントの撤収をしてください。テントが濡れている場合は撤収できないので、必ず朝に、職員や村長(管理人)と相談の上、時間を設定してください。
- ② 撤収の際は、テント点検カードを使って点検してください。
- ③ 退所日に他の入所団体があるときは、午前10時までにはテントを空けてください。

2 サービスセンターの利用

- (1) サービスセンターは生涯学習のための施設です。一般の方々も利用しますので、迷惑のかからないようにしてください。各団体の荷物は、1F ふれあい工房か2Fホールに置いてください。
- (2) 車椅子ご使用の場合は、サービスセンター横のスロープからセンターに入ることができます。
- (3) 食事は、1Fふれあい工房と2Fホールでとることができます。
- (4) お湯が必要な場合は、職員に申し出てください。
- (5) コンセントからの電気使用は、原則できません。使用希望の場合は、事前打ち合わせ時に、申し出てください。

第 10 章 健康・安全対策

1 健康及び安全の確保

- ①利用前、利用中、利用後も健康状態の観察を行い、適切な指導をしてください。
- ②アレルギー体質や既往症等に関して心配な点がある場合は、事前にご相談ください。
- ③専用の医療品等があれば、必ず持参してください。
- ④けが人や急病人・事故などが発生した場合や途中で帰る場合は、すぐ事務室に連絡してください。
- ⑤深夜における急病などの場合は、本館は夜警に、キャンプ場は管理人に連絡してください。
- ⑥非常時の避難など
 - i 到着後、必ず非常口・避難経路・避難場所の確認をしてください。
 - ii 火災などにより、避難の必要があると判断した場合は、緊急非常全館放送によりその旨を連絡します。最寄りの非常口から子どもたちを安全に避難させてください。

2 野外活動の安全対策

(1) はじめに

美しい自然の中にも危険が潜んでいます。その危険から身を守ること大切な学習の一つです。

※ 事故にあったり、怪我をしたりしたら、すぐに本館事務室にご連絡ください。

(2) 服 装

活動には、それに適した服装があるものです。活動に入る前に、服装を確認しましょう。

(例) 森の中に入るときは、長袖、長ズボン、帽子、できれば軍手も用意する。

ハチに刺されるのを防ぐために、黒い洋服は避ける。

(3) 危険な動物

★ツキノワグマ ⇒気配でわかることがあります。 見つけたら騒がず遠ざかるようにします。
鈴の音や声を出して行けば、熊の方から遠ざかっていきます。(熊鈴は本館で貸し出していますので、森に入る際には必ず身につけましょう。)

★ニホンカモシカ⇒めったに向かってきませんが、角は大変危険です。刺激しないようにします。

★イノシシ⇒巨大化したイノシシが里山付近で発見されています。(クマ対応と同じ)

(4) 毒のある蛇 (もし、かまれたら →p 40)

★ニホンマムシ ★ヤマカガシ (血清がありません)

身を守るために…ゴム長靴をはき長袖長ズボンを着用し、万が一噛まれても被害の出にくい服装をすることが大切です。

遭遇したら……蛇の存在に気づいたら 1 m 以内には近寄らず、逃げる時はなるべく蛇の視野から逃れるように静かにその場から立ち去ってください。危険なのは急に藪に入ったり、周りを取り囲んで蛇の逃げ道を塞いだりすることです。蛇が動かずに死んだと思っても近寄らず、手で触らないようにしましょう。

※ 毒蛇は頭が三角形で首が細く、噛んだ場所に 2 つのキバの跡があります。(下図)

【無毒蛇】



【ヤマカガシ・毒蛇・マムシ】



(5) 危険な昆虫 (もし、さされたら →p 40)

★スズメバチ ★チバチ ★アシナガバチ など

身を守るために…ハチは黒い物に寄ってくるので、黒い服装は避けましょう。白っぽい服装に帽子をかぶり、できるだけ肌は出さないように心掛けましょう。いたずらをしたり、刺激したりしないようにします。巣を見つけたら避けて通りましょう。巣に近づいたり、石を投げたり棒でつついたりしないでください。大変危険です。
遭遇したら………蜂が襲ってきたら、できるだけ体を低くして逃げましょう。刺された場合、体質によっても症状が異なってきます。特に、アレルギー体質かどうかについて、事前に確認しておきたいものです。

(6) 危険な植物

★オクトリカブト ★ドクウツギ ★ウルシ ★ヤマゴボウ ★イチリンソウ など

※ 触ったらすぐにきれいな水で洗うことです。当然食べてはいけません。

(7) 毒のあるキノコ

★テングダケ ★コレラダケ ★ニガクリタケ ★ツキヨタケ ★カエンダケ など

※ カエンダケは触るだけで皮膚がただれます。自分の知らないキノコは採らないようにします。知っている人に聞きましょう。勝手に持ち帰らないようにしましょう。

(8) いかだアドベンチャーの注意

- ①いかだ乗りの時は、必ず救命胴衣を着用します。
 - ②救命胴衣が正しく装着されているか点検します。
 - ③いかだに乗る時、降りる時は、左右のバランスを考えて行動します。
 - ④いかだの上で立ったり、移動したりすることは厳禁です。
 - ⑤万が一、水に転落したら、全員で緊急笛をならします。
- 子どもが自力ではい上がるのは大変ですから、救命ボートが直行します。

(9) 雨天時や雨上がりのプロジェクトアドベンチャー・アスレチックの禁止

雨上がりは滑って危険ですから、活動を中止します。

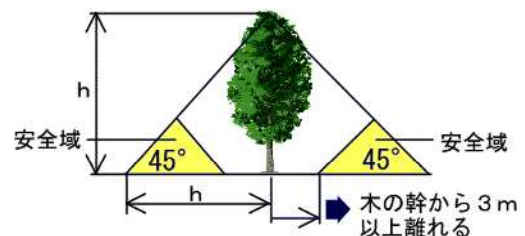
3 落 雷 対 策

(1) 雷の性質

- ・ 大気が不安定な時に、局地的上昇気流によって、雷雲（積乱雲）が発生します。
- ・ 積乱雲の成長するのが見えたら、数分後に落雷の危険があります。
- ・ 「ゴロゴロ」と雷鳴がかすかにでも聞こえたら、そこに落雷する危険があります。

(2) 野外で雷に遭遇した時

- ・ 近くの建物があればその中に逃げるようにしてください。
- ・ 建物のない平坦なところで、高い木があるときは立ち木を45度くらいで見上げられる場所で、低い姿勢になってください。
- ・ 野原のように何も無いところでは、できるだけ低い姿勢で様子を見てください。
- ・ 眼鏡・時計などの貴金属を持っていなくても、落雷の危険性は変わりません。
- ・ ゴム長やレインコートなどの電気を通さない物を身につけていても、雷から身を守る効果はありません。
- ・ 木の下は感電する危険があるので、避けましょう。（上図参照）



※天気予報、警報注意報などの情報をこまめに確認してください。

4 冬期間の安全対策

(1) 特に注意していただきたいこと

- ・活動に余裕がなくなると、怪我も多くなります。プログラムを作成するときは、時間に追われなくても済むように配慮してください。
- ・服装・用具などは、それぞれ自分に合ったものを準備してください。
- ・活動後の汗の始末をしっかりとすること。替えの下着や靴下などは多めに準備してください。
- ・活動の最初と最後に事故が起きやすいので、指導者は活動の様子を十分に把握してください。
(準備運動をしっかりとする。疲れたら休む。最後の「もう1回」が事故のもと。)
- ・宿泊棟の暖房は部屋ごとになっていますので、引率指導者が管理してください。
- ・つららや落雪の危険がありますので、軒下では活動しないでください。

(2) ラングラウフスキーの注意

- ・ストックを振り回して他の人に怪我をさせないように注意しましょう。
- ・特に下り坂では、前の人との間隔をあけて衝突を避けましょう。
- ・コースによっては、脇に溜め池などがある場合があります。落ちていかにないように引率指導者が付いて安全を確保してください。

(3) そり乗りの注意（衝突事故を防ぐために）

- ・スタートや隣の人との間隔を十分にあげてください。
- ・気象条件によって、滑り具合が違います。乗り方だけでなく止まり方の指導も行ってください。
- ・引率指導者は、グレンデの上と下に付いて、安全に配慮しながら指導してください。

(4) チューブ滑りの注意（衝突事故を防ぐために）

- ・前の人が滑り終わって立ち上がったから、スタートしてください。
- ・滑り終わったら、上から滑ってくる人に注意しながら、すぐによけるように指導してください。
- ・途中で転倒したり、帽子などを飛ばしたりした時は、引率指導者が直接対応してください。
- ・引率指導者は上と中と下の3カ所に付いて、安全に配慮しながら指導してください。

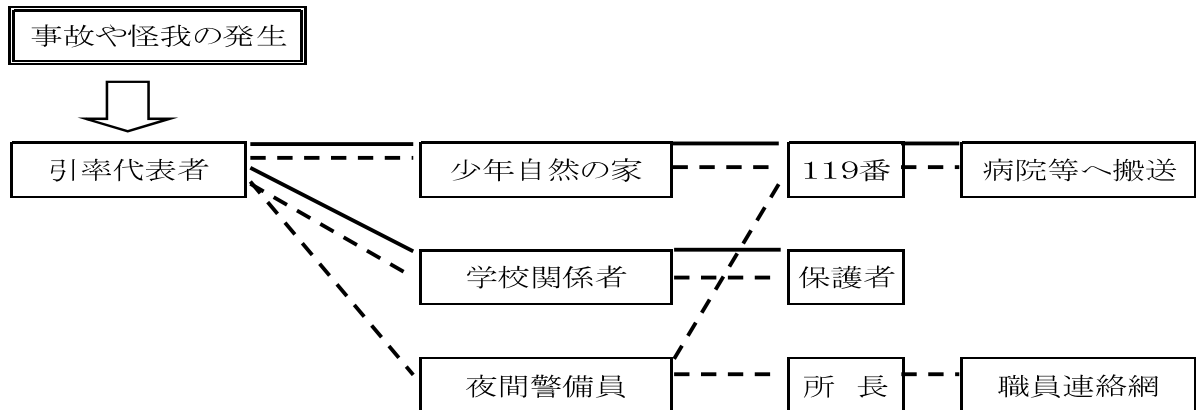
5 事故が起きた場合の救急体制

(1) 緊急連絡先	救 急 車	…	119
(2) 最寄りの病院	山形厚生病院	…	645-8118
	至誠堂とかみクリニック	…	646-5588
(3) 休日/急病診療所	山形市休日夜間急病診療所	…	635-9955
	休日救急歯科診療所	…	629-9988
(4) 救急病院	山形市立病院 済生館	…	625-5555
	県立中央病院	…	685-2626
	小白川至誠堂病院	…	641-6075
	篠田総合病院	…	623-1711
	東北中央病院	…	623-5111
	山形済生病院	…	682-1111
	山形大学医学部附属病院	…	633-1122
	山形徳州会病院	…	647-3434

※自然の家から救急車を要請した場合、「ドクターヘリ」も一緒に出動し、大駐車場もしくはS C 前広場に着陸します。患者の搬送には、引率者1名が必ず付き添ってください。

(5) 緊急連絡網

昼間 —————
夜間 - - - - -



※ 緊急時の連絡先、即住症（ぜんそく、心臓病、腎臓病など）を把握しておいてください。

6 応 急 処 置

(1) 蜂に刺された

【処置法】

- 針を抜く：針等が刺さっている時は根元からおさえて毛抜きなどで抜く。
- 毒抜きを行う：爪や吸引器で毒をしぼり出す。
- 傷口を洗う：患部を清潔な水で十分洗い流す。
- 抗ヒスタミン剤を塗り、ガーゼ保護を行う。

→応急処置をしたら、早急に医師の診察を受けましょう。

※ アレルギーショック症状に注意；呼吸困難、チアノーゼ、脈拍が弱くなる等の症状が現れます。特に蜂に刺されたのが二回目の時は、注意が必要であり、刺された後 30 分以内に起こるので十分に観察します。

(2) 毒蛇（マムシ、ヤマカガシ）に噛まれた

【処置法】

- 安静にする：噛まれたらまず、安静に寝かせる。
※ 動くと毒素のまわりが速くなります。噛まれた部位は心臓より低く保ちます。
- 傷口を洗う：傷口をきれいな水で洗い流す。5%タンニン酸があればそれで洗い流す。
- 布等で縛る：手足であれば、傷口より上部（心臓に近い方、5～10cm）を脈が止まらない程度で縛る。約 10～15 分に一回 90 秒程度ゆるめ血を通わせる。
- 毒を吸い出す：毒を吸い出し、吐き出す。

※ 口の中に傷や虫歯がある人は危険です。蜂同様、吸引器を使用するのが効果的。

- 元気づける：精神的なショックを取り除く。

※ 応急処置をしたら早急に医師の診察を受けましょう。

(3) 熱中症

【予防法】

- ・外に出る時には、帽子やタオル等で頭・首を守ります。
- ・風通しの良い服装にします。
- ・休憩や水分の補給を適度に行い、同時に塩分も補給します。

【症 状】

- ・顔が赤くなる ・呼吸が速く浅くなる ・体温が上昇する
- ・汗は出ない ・血圧が低下する ・頭痛、めまい

上記のような症状が見られたら

【処置法】

- 風通しがよく、暑くない所に運び衣類を緩める。
- 水平位又は上半身をやや高めに寝かせる。
- 意識があり吐き気や嘔吐がなければ、水やスポーツ飲料を飲ませる。塩分を取らせる。 ※無理に飲ませず徐々に様子を見ながら。
- 体温が高いときには、水で全身の皮膚を濡らし仰いで風を送り体温を下げる。
 - ※ 額、首・わきの下・足の付け根の動脈を冷やす。（図のように）
 - ※ めまいで倒れる場合があるので、怪我に注意しましょう。



（４）火 傷

【処置法】

- 徹底的に冷やします。
 - ※ 服を着た上の場合、脱がさないで服の上から流水で（冷たい水、水道水、濡れたタオル、氷を入れたタオル）痛みが取れるまで、5～20 分が目安です。ただし広範囲の場合、体温低下の 恐れがあるため注意します。
- 火傷の程度を確認する。

程度	外 見	症 状
1 度	皮膚の色が赤くなる	痛みと、ヒリヒリする感じ
2 度	皮膚ははれて赤くなり水ぶくれになるところもある	浅2度（真皮浅層の障害）；強い痛みと焼けるような感じ 深2度（真皮深層の障害）；痛みや皮膚の感じが分からなくなる
3 度	皮膚は乾いてかたく弾力性がなく、蒼白になり場所によってはこげている	痛みや皮膚の感じが分からなくなる

- ※ 水ぶくれが出来ても潰さずに、ガーゼやバンソウコウで保護する。
- ※ 氷等で冷やす時は冷やしすぎに注意しましょう。健康な皮膚が痛くなるほど冷やさず、休み休み冷やしましょう。
- ※ 火傷の程度に関わらず広範囲の場合は皮膚科・外科へ。→軟膏・油・消毒薬等はぬらないようにしましょう。（感染の原因になったり、医師の診療の妨げになります）清潔な布等で覆いながら搬送するとよいでしょう。

（５）切り傷、刺し傷 等

出血には下記の 3 つの種類があります。

- ・毛細血管からの出血：赤い色でにじみ出るような出血。
- ・静脈からの出血：赤黒い色でじわじわと出血。傷口を圧迫して止血。
- ・動脈からの出血：鮮やかな赤色で勢い良く出血。止血点を圧迫止血する必要。

特に動脈からの出血の時には注意が必要です。

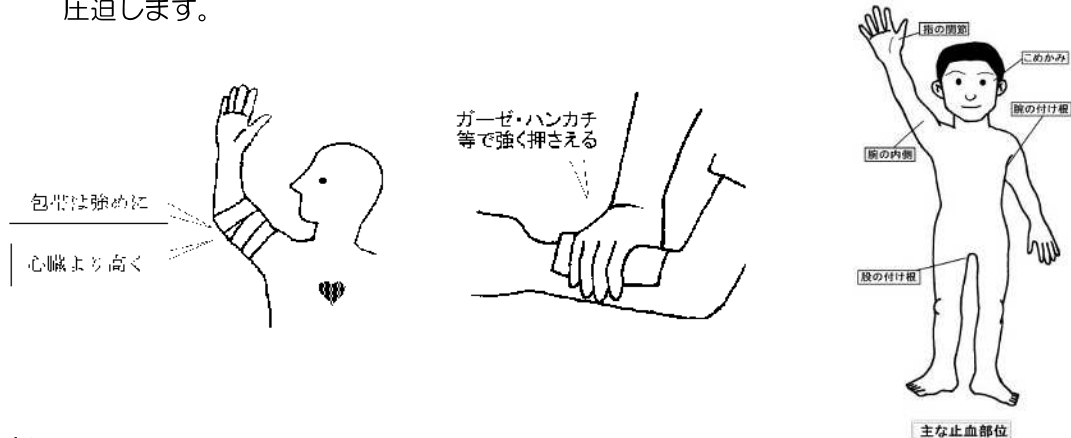
- 切り傷**
- ・軽いものは、傷口を消毒しガーゼを当てておく程度で治ります。
 - ・大きな傷は周りの皮膚をつまんで傷をふさぐようにすると良いです。
 - ・きれいなガーゼをあてます。
- 刺し傷**
- ・大きなものが刺さったら無理に抜かないようにしましょう。
 - ・動脈に傷ついて抜くと、一気に血が出るので無理せずできる範囲で止血してください。 → 皮膚科・外科へ搬送する。

【止血方法】

上肢、下肢であればその部分を心臓より高く挙げると止血につながります。

傷口の上をガーゼやハンカチで直接強く押さえてしばらく圧迫する。包帯を少しきつめに巻くことでも同様の効果が期待できます。

※ 上記の方法だけでは出血を抑えられない時は、傷口より心臓に近い動脈を、手や指で圧迫します。



(6) 骨 折

全身状態を観察し、少しでも骨折が疑われる症状（腫れ、変形、皮膚の変色、触れた時の激しい激痛）があれば骨折の手当てをします。

【処置法】

痛みを和らげ骨折部の安静をはかるために、まず副子（添え木）を当て骨折部を固定します。副子は傘・板・クッション・座布団・毛布など、身近にあるものが利用できます。骨折した部位の上と下の2関節に届く長さが必要です。また、腫れがある場合は冷やします。

【副子の当て方】

- 一人が骨折部を動揺しないようにしっかりと支えます。
- 皮膚との間（かかと、足首、膝、手首、肘など）にはタオルなど柔らかい布を十分に入れる。
- 副子は、骨折部が動かないように骨折部の上下2関節を包帯・三角巾等でしっかり固定する。（末梢の血行を妨げない程度の強さで）



※ 骨折部が変形している時は、むやみに戻さずに固定します。

固定したらできるだけ早く整形外科か外科に受診してください。移動の際、動かすと痛みが強くなるので、できるだけ振動が加わらないように注意します。

(7) 捻 挫

関節の痛みと腫れが主な症状です。冷やす、又は冷湿布をし、関節を固定して動かさないようにすることが大切になります。

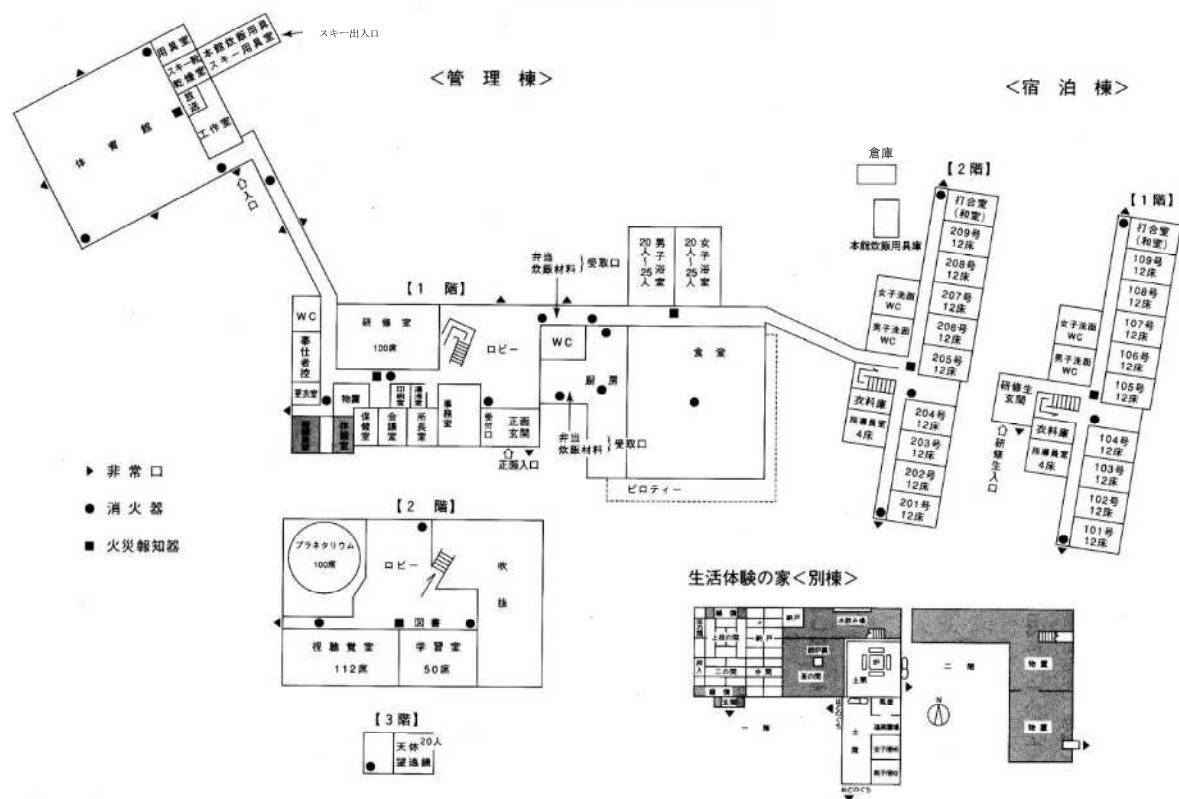
6 AED(自動体外式除細動器)の設置場所

AEDとは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。AEDは、操作方法を音声ガイドしてくれるため、簡単に使用することができます。また、心臓の動き（心電図）を自動解析し、電気ショックが必要な方にのみ電気ショックを流す仕組みになっているので安心です。

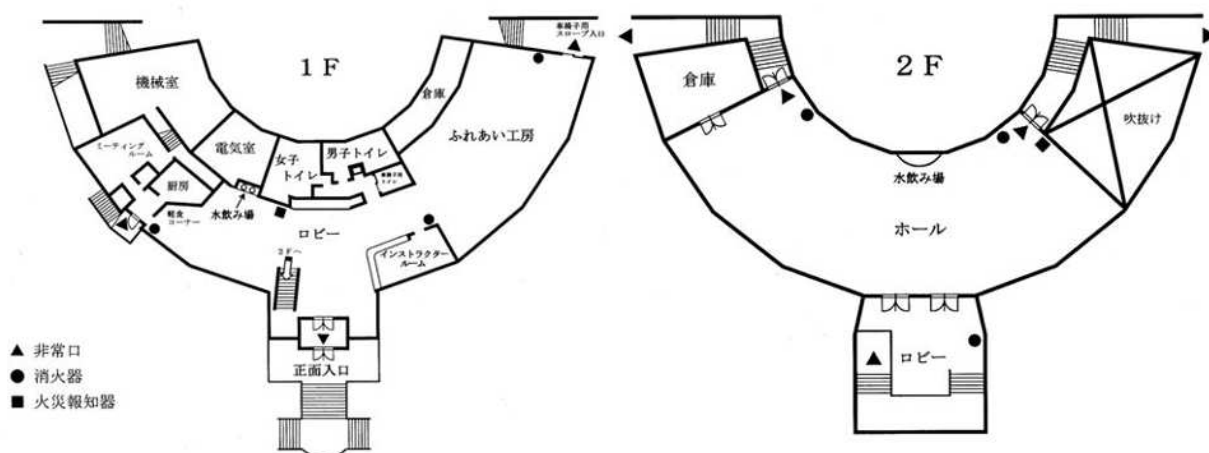
【AED設置場所】

★本館ロビー ★サービスセンター ★板橋沼キャンプ場管理棟 ★荒沼キャンプ場管理棟

〔資料 1〕 本館案内図



〔資料 2〕 サービスセンター案内図



[資料3] 荒沼キャンプ場（常設テント）

建 物	管理棟、用具棟、バンガロー5棟（1棟定員8～10人）、炊飯棟（水道蛇口 36、かまど 28）、便所3棟（うち1棟はバイオマストイレ）、薪小屋、展望台、イベントテント（大テント）
設 備	場内用放送機器、ワイヤレスアンプ（マイク付き）、ドラム、CDラジカセ、公衆電話、営火場
用 具	常設テント40張（3,4人用）、シュラフ150（不足した場合は追加可能）、炊飯用コンテナ40セット、ランタン40（1つにつき単一電池4個必要） 炊飯用コンテナの内容…鍋2、まな板1、包丁2、フライ返し1、しゃもじ1、ボウル（大1・中1）、ざる（大1・中1）、おたま1、皮むき2

荒沼キャンプ場案内図 （常設テント）

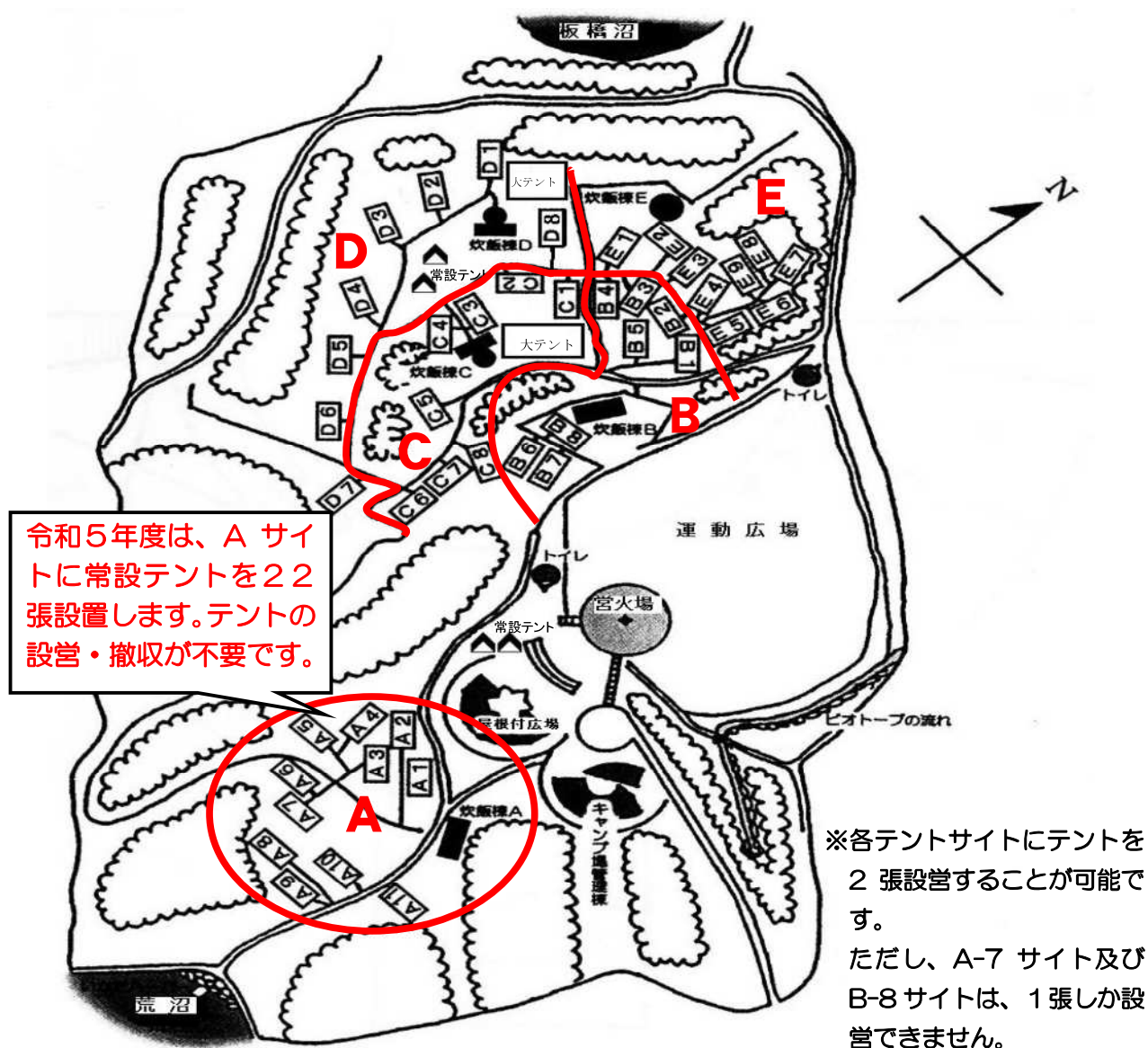
令和5年度は、炊飯棟工事のため、荒沼キャンプ場は秋まで使用できません。



[資料4] 板橋沼キャンプ場（テント設営・撤収）

建 物	管理棟（シャワー5室）、コンテナや炊飯用コンテナ及び薪倉庫、水洗トイレ2棟、指導者用常設テント4張（屋根付広場・C炊飯棟裏 各2張） 大テント2張（B炊飯棟とC炊飯棟の間・D炊飯棟とE炊飯棟の間）				
テントサイト	A	B	C	D	E
テント数	11サイト21張	8サイト15張	8サイト16張	8サイト16張	9サイト18張
かまど	12	12	10	10	6
水道	12	12	12	12	6
設 備	場内用放送機器、ワイヤレスアンプ（マイク付）、CDラジカセ、ドラム、公衆電話、営火場				
用 具	ドーム型テント55張程度（5,6人用）、シュラフ300、炊飯用コンテナ、ランタン（1つにつき単一電池4個必要） 炊飯用コンテナの内容…鍋（2）、まな板1、包丁2、フライ返し1、しゃもじ1、ボウル（2）、ざる（2）、おたま1、皮むき2				
他 の 施 設	運動広場、屋根付き広場、ピオトープ				

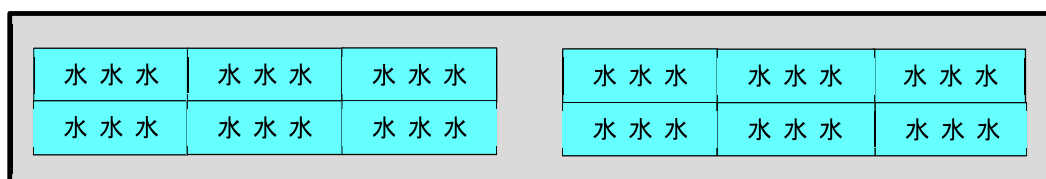
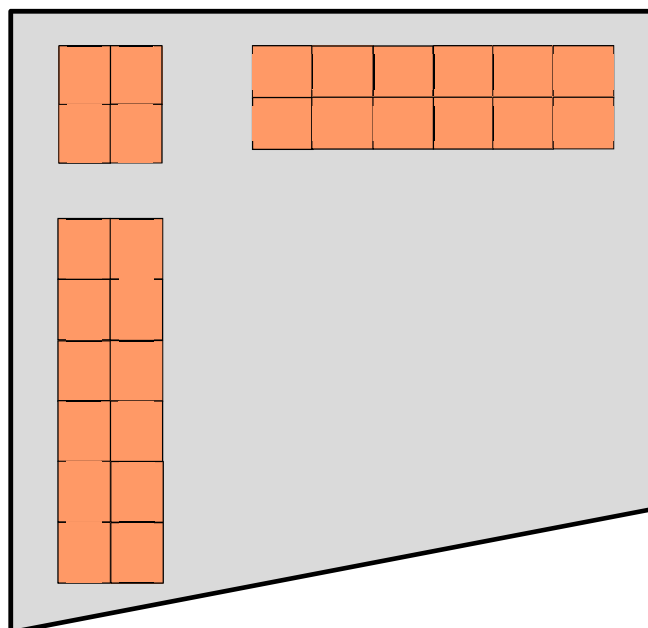
板橋沼キャンプ場案内図



[資料5] 各炊飯棟内の配置図

荒沼キャンプ場 炊飯棟

かまど28 (水道36)

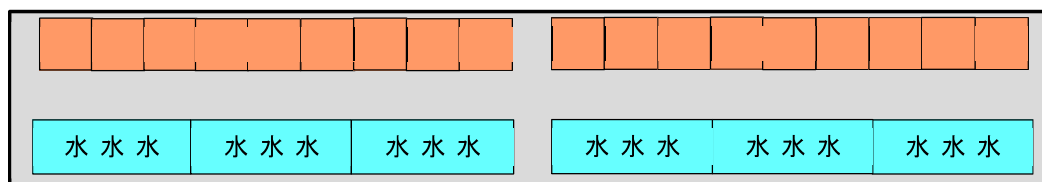


水場近くに『大テント』があります。雨天時や地面が濡れている際に便利です。

コンテナ置場と薪庫は、別棟（離れた場所）に位置しています。近くの職員にお尋ねください。

本館 炊飯棟

かまど18 水道18



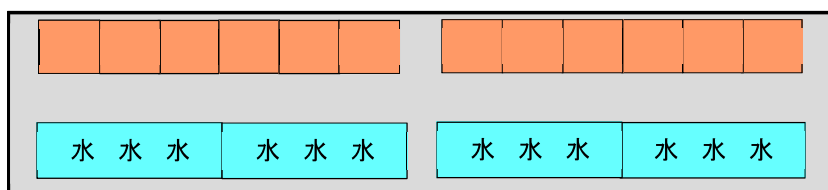
雨天時や地面が濡れている際の「食事の場所」を他の団体と調整し、確保しておくことをおすすめします。

用具庫（コンテナ・薪・クレンザー・スキッシュ等）は、本館炊飯棟から宿泊棟前に見える2棟の右側です。各団体で、コンテナや薪など必要な数だけお持ちください。また、クレンザーやスキッシュは、2～3班で1つの割合になるようにお持ちください。

板橋沼キャンプ場 炊飯棟

かまど 計50 (水道 計54)

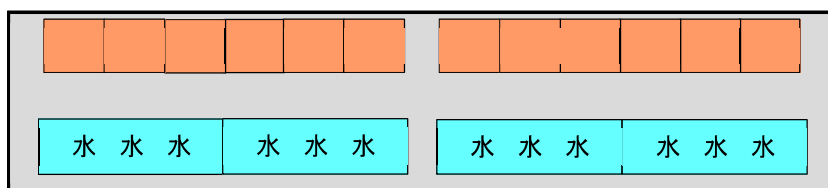
【A炊飯棟】



かまど 12
水道 12

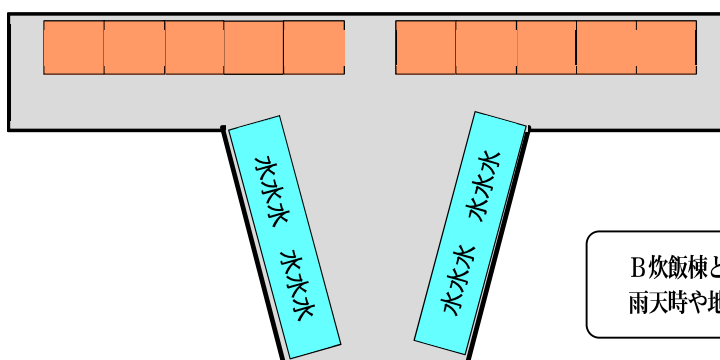
雨天時や地面が濡れている際は、『屋根付広場』を使うと便利です。

【B炊飯棟】



かまど 12
水道 12

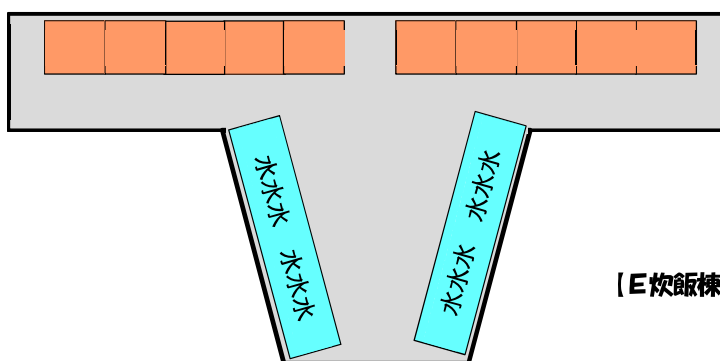
【C炊飯棟】



かまど 10
水道 12

B炊飯棟とC炊飯棟の間に『大テント』があります。雨天時や地面が濡れている際に便利です。

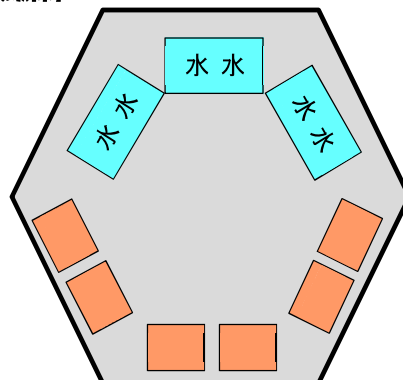
【D炊飯棟】



かまど 10
水道 12

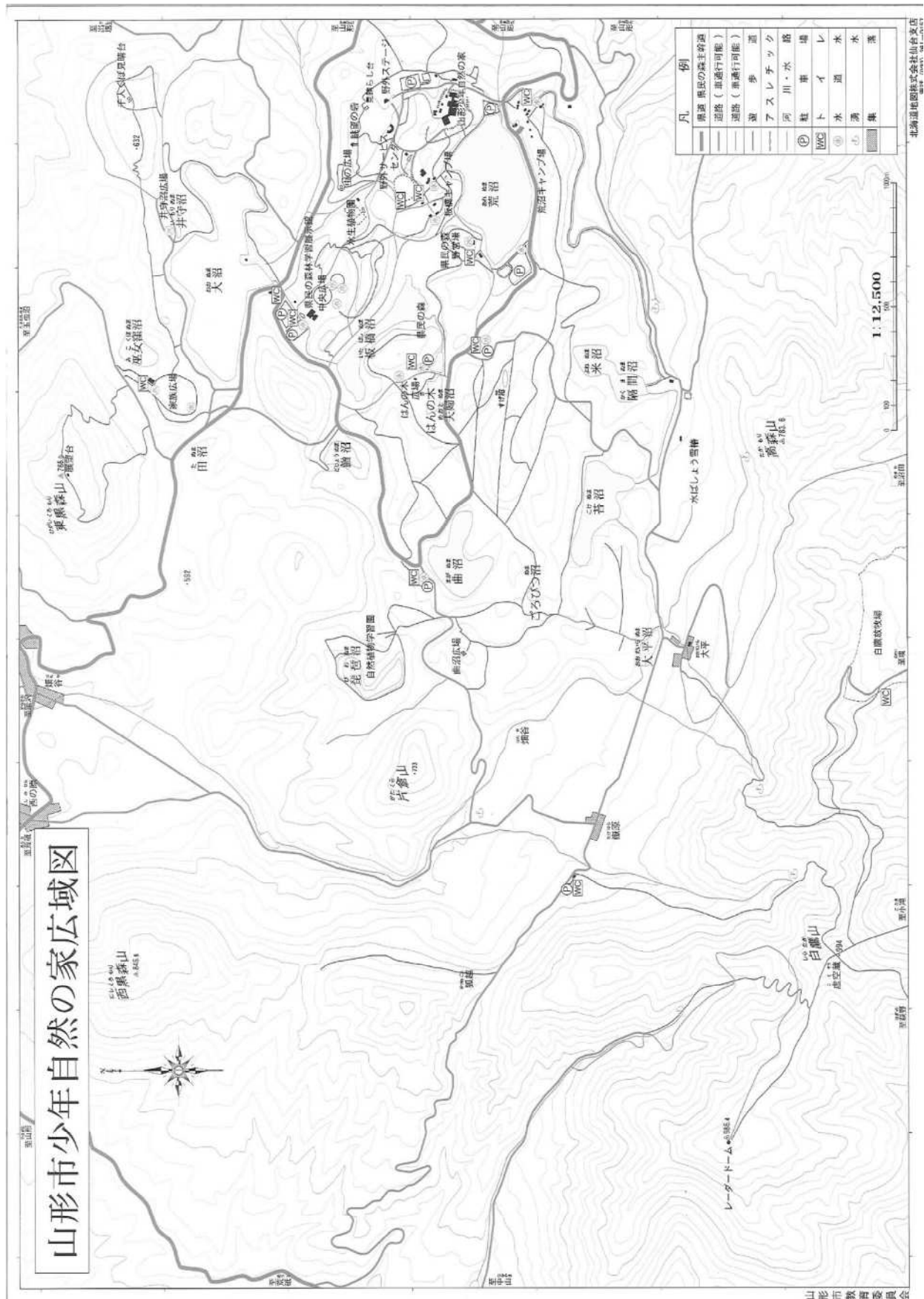
D炊飯棟とE炊飯棟の間に『大テント』があります。雨天時や地面が濡れている際に便利です。

【E炊飯棟】



かまど 6
水道 6

[資料6] 山形市少年自然の家活動広域図





山形市少年自然の家

〒990-0361

山形県東村山郡山辺町大字畑谷字板橋 3725番地

＜本館 事務室＞

電 話： 023-643-8533 FAX:023-643-8574

URL : <http://www.ymgt.ed.jp/shizennoie/>

E-mail : SHIZEN@ymgt.ed.jp

＜野外活動センター＞

電 話： 023-643-8633（サービスセンター）